

**群馬県営ゴルフ場事業
あり方検討委員会
報告書**

令和4年3月

目次

はじめに

I	あり方検討対象施設	2 頁
II	県営ゴルフ場事業が直面する課題	
1	ゴルフ場利用者数の減少等	2 頁
2	自然災害の影響等	4 頁
3	クラブハウスの老朽化や新型コロナウイルス感染症への対応	5 頁
4	検討方法	5 頁
III	県営ゴルフ場アンケート結果	
1	「県営ゴルフ場利用者アンケート」結果概要	6 頁
2	「県内民間ゴルフ場支配人アンケート」結果概要	6 頁
IV	県営ゴルフ場事業の今後の方向性	
1	総論	7 頁
2	玉村ゴルフ場	9 頁
3	前橋ゴルフ場	10 頁
4	板倉ゴルフ場	11 頁
5	新玉村ゴルフ場	12 頁
V	資料編	
1	県営ゴルフ場事業あり方検討委員会	14 頁
(1)	設置要綱	14 頁
(2)	委員名簿	16 頁
(3)	検討の経過	16 頁
(4)	議事概要	17 頁
2	アンケート調査結果	33 頁
(1)	県営ゴルフ場利用者（全体）	33 頁
(2)	県営ゴルフ場利用者（県内居住者）	45 頁
(3)	県内民間ゴルフ場支配人	56 頁
3	施設の基本情報（個票）	62 頁
(1)	玉村ゴルフ場	62 頁
(2)	前橋ゴルフ場	63 頁
(3)	板倉ゴルフ場	64 頁
(4)	新玉村ゴルフ場	65 頁

はじめに

県営ゴルフ場は昭和46年に県営として初の上武ゴルフ場が開業して今年で51年目を迎えました。残念ながら、上武ゴルフ場は令和元年の台風19号により大きな被害を受け、令和3年3月に廃止となりましたが、現在営業している玉村ゴルフ場、前橋ゴルフ場、板倉ゴルフ場、新玉村ゴルフ場については、県内外から多くの利用者が来場しており、河川の荒廃防止や県民の健康増進等のみならず、地域経済を支え、地域住民が交流を図るための重要な拠点にもなっています。

しかしながら、ゴルフ場利用者数の減少に伴う市場の縮小、民間ゴルフ場の値下げによる価格競争、施設の老朽化や自然災害の頻発など、県営ゴルフ場を取り巻く状況は設置当初の状況とは大きく変化しています。

こうした課題がある中で、群馬県営ゴルフ場事業あり方検討委員会は、第4期指定管理期間終了後である令和7年度以降の県営ゴルフ場のあり方について、委員それぞれの立場で様々な角度から検討を進めてきました。

本報告書は、県営ゴルフ場における課題解決に向け、今後20年を見据えた方向性について、当検討委員会の総意として取りまとめたものです。

群馬県企業局には、本報告書の趣旨を踏まえて、県営ゴルフ場の改革に取り組むことにより、今後もより多くの県民から親しまれ、利用されるゴルフ場としていただけることを切に願います。

令和4年3月

群馬県営ゴルフ場事業あり方検討委員会
委員長 米本 清

I あり方検討対象施設

◆ 対象施設一覧

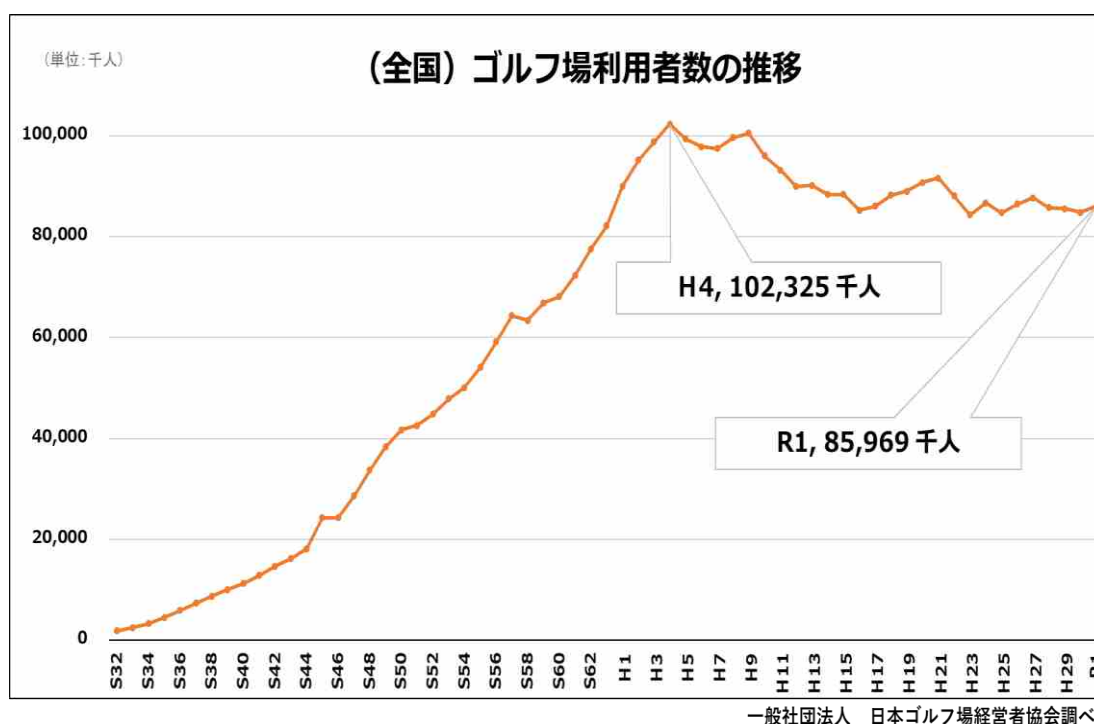
ゴルフ場	所在地	事業費(百万円)	供用開始	現指定管理者
玉 村	玉村町大字角淵	701	S51.9.19	(株)三商
前 橋	前橋市川原町	1,090	S54.10.23	久松商事(株)
板 倉	板倉町大字板倉	1,687	S59.10.21	東急リゾート&ステイ(株)
新玉村	玉村町大字川井	1,321	S60.10.28	金井興業(株)

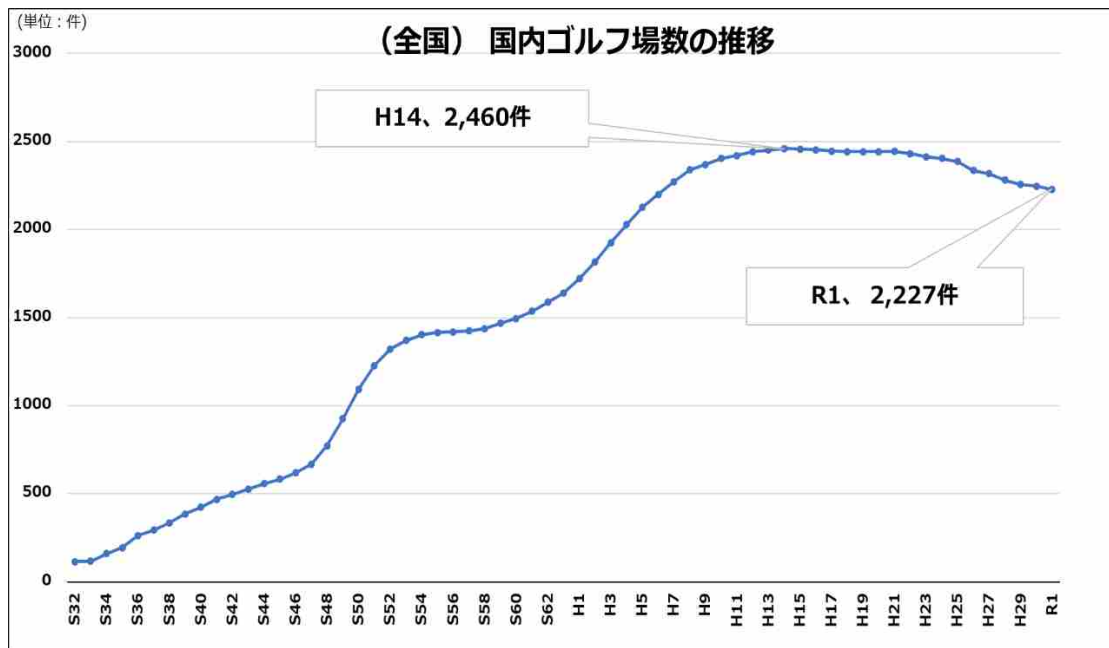
II 県営ゴルフ場事業が直面する課題

1 ゴルフ場利用者数の減少等

群馬県企業局では、河川の荒廃防止と有効活用により、県民の健康増進など県民福祉を向上させることを目的として、昭和46年から県営ゴルフ場の営業を開始した。平成18年度からは指定管理者制度を導入し、現在では4つのゴルフ場を設置・運営している。

全国のゴルフ場利用者数は平成4年度の102,325千人、同じくゴルフ場数は平成14年度の2,460件をピークに緩やかな減少を続けており、県営ゴルフ場においては、ゴルフ場利用者数減少に伴う市場の縮小や民間ゴルフ場の値下げの影響を受けている。





一般社団法人 日本ゴルフ場経営者協会調べ

2 自然災害の影響等

県営ゴルフ場は河川敷に設置されていることから、近年は、台風被害の頻発等による事業継続上のリスクの高まりが懸念されている。

特に令和元年の台風19号では上武ゴルフ場は大きな被害を受け、ゴルフ場を廃止するまでの被害となった。

また、国土交通省では、頻発する水災に対応するため、平成25年5月に「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画」を策定しており、具体的な時期は示されていないが、玉村ゴルフ場及び新玉村ゴルフ場の位置に「烏川調節池」の整備が計画されている。

なお、下流の利根川河川敷で営業していた埼玉県企業局の「妻沼ゴルフ場」は、令和元年の台風19号で被災したことに加え、国土交通省の「首都圏氾濫区域堤防強化対策」によりゴルフ場が堤防用地となるため、令和2年6月30日に営業を終了している。



3 クラブハウスの老朽化や新型コロナウイルス感染症への対応

玉村ゴルフ場は平成27年度に建替を行ったが、前橋・板倉・新玉村ゴルフ場は老朽化が進行しており、改修の検討が必要である。

また、コロナ禍においても、ゴルフは屋外でプレーするスポーツであることから、比較的安全と言われているが、クラブハウスについては、レストランや浴室、ロッカールーム等、感染防止対策が必要なところもある。

こうしたことから、ニューノーマルを踏まえた県営ゴルフ場運営等についても検討する必要がある。

さらに新型コロナウイルスの影響により、ゴルフ場利用者のニーズには変化が起きており、緊急事態宣言解除後も休憩なしのスループレーを希望する利用者が多くいることや、昼食等でのレストラン利用時やロッカールームの利用時、浴室の利用時等にも新型コロナウイルス対策が実施されているか注意を向ける利用者も多くいる。こうした変化は、ニューノーマルにおける利用者の意識の変化と言える。

県営ゴルフ場では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っているが、全てのゴルフ場でレストランが設置され、建替済みの玉村ゴルフ場を除き、ロッカールームや浴室は狭いことから、抜本的な対策が必要であり、クラブハウスの改修等を行う際は、ゴルフ場利用者ニーズの変化も踏まえる必要がある。

4 検討方法

以上のような状況変化や課題等を踏まえ、今後の県営ゴルフ場の運営継続の要否、運営を継続する場合の運営方法や営業スタイル等についてのあり方を検討することとした。

なお、検討にあたっては、企業局が外部の有識者で構成する「群馬県営ゴルフ場事業あり方検討委員会」を令和3年7月に設置し、対象施設のあり方について、専門的見地から意見を聴取した。

また、企業局では、検討の参考とするため、令和3年8月に民間の調査会社に委託して4つの県営ゴルフ場の利用者に対するアンケート調査を実施したほか、県内の民間ゴルフ場支配人に対するアンケート調査を実施した。

Ⅲ 県営ゴルフ場アンケート結果

1 「県営ゴルフ場利用者アンケート」結果概要

- ・ 県営ゴルフ場の要否については、「必要と思う」との回答が97%あった。
- ・ 気軽さや、低廉な価格、アクセスの良さが評価された。
- ・ 従来どおりの「昼食をとってプレーしたい」が最も多かったが、「スループレーのみでも良い」と「カジュアルに気軽にプレー出来るゴルフ場の方が良い」も多数の回答があった。
- ・ 「風呂がなくてもシャワーがあれば問題ない」が最も多かった。
- ・ 県営ゴルフ場のクラブハウスは「古くても構わない」もしくは「簡素な作りでよい」と考えられているが、料金については現在と同水準又は、より安価な設定を求められている。
- ・ 現状では利用者が高齢者に偏重しているが、「子供から高齢者まで、広く県民から親しまれるゴルフ場」を求められている。
- ・ 回答者の半数が60歳以上であり、高齢者の割合が高い。
- ・ 回答者の67%は県営及び民間の両方のゴルフ場を利用しているが、どちらのゴルフ場も選ぶ理由が「アクセスの良さ」、「料金が手頃」であり、設置主体でゴルフ場を選ぶ傾向はうかがえなかった。

2 「県内民間ゴルフ場支配人アンケート」結果概要

- ・ 回答数39件中38件が、県営ゴルフ場は「必要と思う」と回答。必要な理由としては、「裾野拡大に貢献している」が最も多かった。また、その他の意見では、「高齢者、女性、ジュニアが利用しやすいゴルフ場」とした方がよいとの意見が多く挙げられた。
- ・ 従来どおりの「昼食をとってプレー」は少数であり、「スループレーのみでも良い」、「カジュアルに気軽にプレー出来るゴルフ場の方が良い」との回答が多かった。
- ・ 「利用者が満足するような設備が必要」との意見もあったが、「風呂がなくてもシャワーがあれば問題ない」が最も多く、次いで「レストランがなくても軽食があれば問題ない」との回答が多く、施設や設備の簡素化に関する意見が多かった。
- ・ 「高齢者、女性、ジュニアが利用しやすいゴルフ場」、「県民の利用割合を高める」、「県営独自の運営を行う」、「県民に対する利用料の優遇」等の意見が多く挙げられており、県民にとってより身近なゴルフ場作りを求められている。
- ・ 県営ゴルフ場は「裾野拡大に貢献している」と評価された。一方で、県外利用者の多さが指摘されている。
- ・ ジュニアやゴルフ初心者の受け皿への期待や、気軽にプレー出来ることが求められている。

IV 県営ゴルフ場事業の今後の方向性

1 総論

(1) 現状と課題

- ・ 群馬県企業局では現在、4つの県営ゴルフ場を設置・運営しているが、供用を開始してから36～45年が経過し、玉村ゴルフ場を除く3つのゴルフ場は施設の老朽化が進んでいる。
4つのゴルフ場のうち、玉村ゴルフ場は平成27年度にクラブハウスの建替を行ったが、残る前橋、板倉、新玉村の各ゴルフ場については、今後の建替、改修計画について利用者のニーズに応えつつ、いかにコストを抑えた設計とすることが課題であり、再度の劣化診断の実施を検討する必要がある。
- ・ 自然災害については、近年では想定を超える災害が発生しており、特に令和元年の台風19号では上武ゴルフ場が大きな被害を受け、上武ゴルフ場は廃止を余儀なくされた。廃止にあたっては多額の損失を計上することになり、台風被害等による事業継続リスクも高まっている。
- ・ 新型コロナウイルスによる影響により、利用者の施設の使用方法も変化しているため、ニューノーマルに対応した利用者ニーズを踏まえたゴルフ場運営を検討する必要がある。
- ・ ゴルフ場利用者数の減少や民間ゴルフ場の利用料金の低下等の影響を踏まえ、県営ゴルフ場についても効率的な運営や民間ゴルフ場との差別化を図る手段について検討する必要がある。
- ・ 県営ゴルフ場を取り巻く環境は設置当初と比べて大きく変化しており、県営ゴルフ場の運営継続の可否を含めた今後のあり方についての検討が必要である。

(2) 県営ゴルフ場事業の今後のあり方（総論）

① 県営ゴルフ場の要否について

- ・ 現状の利用者が多いこと、アンケート調査結果の継続希望が多いこと、河川敷の管理に役立っていることから、総合的にみて、県営ゴルフ場の継続は必要である。

② 県営ゴルフ場運営の方向性について

- ・ アンケート調査結果からも「カジュアルに気軽にプレー出来るゴルフ場の方が良い」が最も回答が多くなっていることから、県民が気軽にゴルフを楽しむための施設としていく必要がある。
- ・ 各ゴルフ場の特徴を考慮し、それぞれのゴルフ場の特色やターゲットを明確にしたうえで、そのニーズに合ったプレイスタイルの提供について検討されたい。
- ・ 近年は予測のつかない自然災害が発生するため、災害対応を含めた運営マニュアル作成の検討や水災以外の災害時に避難所等として活用できる施設であるこ

とが望ましい。

- ・ ゴルフ場によっては、将来的に設置主体の変更や更なる民間事業者のノウハウの活用方法を検討することも選択肢の一つである。

③ クラブハウスの方向性について

- ・ アンケート調査結果から、利用者からはクラブハウスの充実は求められていないことや、今後の被災リスクを踏まえて、クラブハウスの更新は高額にならない簡素なものを検討されたい。
- ・ 4ゴルフ場が全て同様の設備である必要はなく、プレースタイルに応じてレストランや浴室、ロッカールーム等の廃止や縮小の検討をされたい。

④ 民間ゴルフ場との差別化について

- ・ 民間ゴルフ場との差別化を図るため又、ゴルフを始めやすい環境を提供するため、民間ゴルフ場ではあまり例のないドレスコードの撤廃（Tシャツ・短パンでの来場可又はプレー可等）について検討し、利用者に周知する方策を講じられたい。
- ・ ゴルフ場ごとの特色を出すうえで、ジュニア育成、女性や初心者向け、高齢者へのゴルフ継続支援等により民間ゴルフ場との差別化を図る方策を講じられたい。
- ・ 県民のための公営パブリックゴルフ場の役割を強化するため、県民割引等の導入を検討し、料金の見直しを検討されたい。

2 玉村ゴルフ場

(1) 現状と課題

昭和51年度に設置され老朽化が進んでいたため、平成27年度にクラブハウスの建替を実施した。隣接する新玉村ゴルフ場のクラブハウスは建設当初のままであるため、施設の差が生じている。

県営ゴルフ場の効率的な運営を検討する場合、隣接はしているものの、施設やコース難易度に差がある新玉村ゴルフ場との立地条件を活かした一体運営・一体管理が可能か検討する必要がある。

また、国土交通省では、頻発する水災に対応するため「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画」を策定している。計画では具体的な時期は示されていないが、玉村ゴルフ場及び新玉村ゴルフ場の位置に「烏川調節池」の整備が計画されているため、将来的には玉村ゴルフ場及び新玉村ゴルフ場を廃止せざるを得なくなる可能性がある。

(2) 玉村ゴルフ場の今後のあり方

① 運営の方向性について

- ・ 玉村ゴルフ場と新玉村ゴルフ場の一体運営・一体管理を行うにあたり、玉村ゴルフ場のクラブハウス1つのみで運営した場合、新玉村ゴルフ場の利用者と合わせた利用者全員を受け入れることが可能か、また、コース間の移動についてはゴルフカートでは時間がかかりすぎる等の課題について十分に検討する必要がある。
- ・ クラブハウスは新玉村ゴルフ場と物理的に一体ということではなく、両方のクラブハウスは残したまま、1つの指定管理者が玉村と新玉村ゴルフ場の両ゴルフ場を運営する手法も検討されたい。
- ・ 隣接する新玉村ゴルフ場は競技志向の利用者向けであり、若年層の利用者が多いことに対し、玉村ゴルフ場は施設が新しいことやコースの距離が短いことから、よりカジュアル向けに特化し、女性、高齢者をメインターゲットにした運営方法を検討されたい。

② クラブハウスの方向性について

- ・ 玉村ゴルフ場は平成27年度に建替が済んでいる最も新しいクラブハウスであるため、長期保全計画を策定し、計画的な予防保全により、施設の適切な維持管理を継続して行き、現有施設をより長期間使用できる状態を維持していく必要がある。

③ その他

- ・ 玉村ゴルフ場と新玉村ゴルフ場のコースについて、全体を再編成し、2つのゴルフ場に分ける構想も選択肢の一つである。

3 前橋ゴルフ場

(1) 現状と課題

昭和54年度に設置されクラブハウスの老朽化が進んでいるが、昭和60年に第一種中高層住居専用地域に指定されたため、指定用途地域の制限により建替が行えない。(一定条件の下での増改築は可)

また、土地区画整理事業が進み、周囲が急速に宅地化したため、敷地の拡張はできず、現状の敷地では営業を継続しながらの建替は困難な状況にある。

クラブハウス内の浴室やロッカールーム等は特に狭いため、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、緊急事態宣言時等は使用を中止せざるを得ないが、利用者からは不満の声もある。

県内利用者が8割を超える利用状況や、建替の制限を踏まえ、前橋ゴルフ場の運営スタイルやクラブハウスのあり方を検討する必要がある。

(2) 前橋ゴルフ場の今後のあり方

① 運営の方向性について

- ・ 前橋ゴルフ場は都市型のゴルフ場であり、近隣から来場しやすい立地であるので、カジュアル向けに特化し、スループレー専用ゴルフ場への転換に向けた検討に積極的に取り組まれない。

また、アクセスの良さ等を活かし、初心者や高齢者をメインターゲットにした運営方法を検討されたい。

② クラブハウスの方向性について

- ・ プレースタイル転換の検討に伴い、施設の簡素化を検討し、レストラン、浴室、ロッカールームは、運営に適した形態で縮小・廃止を検討されたい。

なお、スループレー専用のゴルフ場とした場合、食事が全くとれないことはプレーに支障をきたす場合があることや、プレー後にシャワーだけでも浴びたいという利用者は一定数いると思われるので、施設改修の検討時には配慮願いたい。

③ その他

- ・ スループレーの特色を出すために、スループレー時の食事については、3ホールごとにキッチンカーを配置し、食事をするプレーヤーはパスを選択できるようにすることも一案である。
- ・ 前橋ゴルフ場は高齢の利用者が多く、現在のプレイスタイルに馴染んでいると思われるので、スループレー専用ゴルフ場に転換する場合は、現在の利用者にも一定の配慮が必要である。

4 板倉ゴルフ場

(1) 現状と課題

昭和59年度に設置されクラブハウスの老朽化が進んでおり、ボイラーや空調関係機器の故障が頻発し、建物内部にある給排水管が特に劣化している状況である。躯体に影響を与えている可能性が高く、既存建物の大規模な改修が必要な状況である。

板倉ゴルフ場は県境近くに位置していることから、ゴルフ場の利用者は県内利用者が2割未満、県外利用者が8割を超えている。

前橋ゴルフ場と同様にクラブハウス内の浴室やロッカールーム等が狭く、ニューノーマルに対応した設備の見直しの検討が必要である。

茨城県、栃木県、埼玉県との県境近くに位置する立地条件や、利用者の状況を踏まえ、板倉ゴルフ場の営業スタイルやクラブハウスのあり方を検討する必要がある。

(2) 板倉ゴルフ場の今後のあり方

① 運営の方向性について

- ・ 板倉ゴルフ場については、現状のプレースタイルを継続しても支障はないと思われる。
- ・ スループレー専用のゴルフ場へ転換することも選択肢の一つであるが、板倉ゴルフ場は前橋ゴルフ場と利用者の状況が大きく異なるため、スループレー専用は利用者になじまない可能性が高い。もし、スループレー専用を検討するのであれば、周辺ゴルフ場との競争性等を考慮して実現の可能性を十分に検討されたい。
- ・ アンケート調査結果では比較的若い世代の利用者が多いことから、ジュニアの育成を含め、比較的若い世代をメインターゲットにした運営方法を検討されたい。

② クラブハウスの方向性について

- ・ 板倉ゴルフ場は県境近くに立地し、他県の近隣ゴルフ場よりプレー料が低廉であることが魅力であるため、県外からの利用者が多いといった状況にあると考えられる。このため、クラブハウスについては高額な施設や設備でなくても支障はないと思われる。

③ その他

- ・ 板倉ゴルフ場は、立地条件により他県利用者が多いことから、現在の指定管理者が約500円の県民割引を実施してはいるものの、基本的に県営らしさが出ていない状況と思われる。
- ・ 板倉ゴルフ場は近隣のゴルフ場よりも低廉なプレー料が魅力であるため、施設には費用をかけずに現有施設を維持管理しながら運営を継続する方法も考えられる。

5 新玉村ゴルフ場

(1) 現状と課題

新玉村ゴルフ場は、群馬県知事・議長杯や群馬県オープンゴルフ選手権等の各種大会の会場として利用されており、県営ゴルフ場の中では比較的、上級者向けのコースとなっている。

昭和60年度に設置され老朽化が進んでいるが、周囲の宅地化や敷地が狭いことから、営業を継続しながらの建替が困難な状況である。また、隣接する玉村ゴルフ場はクラブハウスの建替を終えているため、施設の差が生じている。

特にロッカールームや浴室等は狭いため、ニューノーマルに対応した設備の見直しの検討が必要である。

隣接はしているものの、施設やコース難易度に差がある玉村ゴルフ場との立地条件を活かした効率的な一体運営・一体管理が可能か検討する必要がある。

また、玉村ゴルフ場と同様に国土交通省の「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画」の影響を受けて、将来的には玉村ゴルフ場及び新玉村ゴルフ場を廃止せざるを得なくなる可能性がある。

(2) 新玉村ゴルフ場の今後のあり方

① 運営の方向性について

- ・ 玉村ゴルフ場と新玉村ゴルフ場のクラブハウスを1つに集約することは課題が多いと思われるが、1つの指定管理者に両ゴルフ場を管理させる等、効率的な運営方法について検討されたい。
- ・ 玉村ゴルフ場はカジュアル志向の方向性に対し、新玉村ゴルフ場は各種大会が開催されるゴルフ場でもあり、より競技志向の利用者向けに特化するように検討されたい。

その場合には、大会開催時の利用者受入れの課題があるが、より特色が出るスロープレー専用のゴルフ場に転換することも一つの選択肢として検討されたい。

- ・ コースの特色からジュニア強化育成に向いていることや、アンケート調査結果では、他のゴルフ場と比べて若い世代の利用者が多いことから、ジュニア強化育成を含め、若い世代をメインターゲットにした運営方法を検討されたい。また、初心者は玉村ゴルフ場でプレーし、練度を高めて新玉村ゴルフ場へ移行するような運営ができれば効率的である。

② クラブハウスの方向性について

- ・ 既に玉村ゴルフ場に立派なクラブハウスがあり、「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画」がある中で、長期的にはゴルフ場自体を廃止せざるを得なくなる可能性があるため、大きなクラブハウスを建てるのは適切ではないと思われる。
- ・ クラブハウスの更新時は高額にならないよう簡素化を図り、レストラン、浴室、ロッカールーム等については、大会開催時の運営や玉村ゴルフ場との運営方法を踏まえて縮小・廃止を検討されたい。

③ その他

- ・ 競技志向の利用者向けのゴルフ場とするならば、可能であればグリーンをベントに変更することも検討されたい。
- ・ 玉村ゴルフ場と新玉村ゴルフ場の一体運営・一体管理は十分な検討が必要と思われるため、ノウハウを持った専門家の意見を得ることも検討されたい。

おわりに

今回の「群馬県営ゴルフ場事業あり方検討委員会」では、県営ゴルフ場全体のあり方と玉村ゴルフ場、前橋ゴルフ場、板倉ゴルフ場、新玉村ゴルフ場の各ゴルフ場ごとの今後のあり方について検討を進めてきました。

県営ゴルフ場を取り巻く環境は設置当初の状況とは大きく変化している中で、施設の老朽化、自然災害、ゴルフ場利用者数の減少や利用者ニーズの変化など、対応すべき様々な課題があることから、今後、本委員会の報告書を踏まえ、具体的なクラブハウスの整備方針や運営方法等の見直し作業を速やかに進めていくべきと考えます。

また、方針を決める際には、地元自治体や地域との連携、地域関係者からの協力のあり方なども含め、県営ゴルフ場事業に関する長期的な視点からの検討を今後も引き続き行っていくことを併せて期待します。

V 資料編

1 県営ゴルフ場事業あり方検討委員会

(1) 設置要綱

群馬県営ゴルフ場事業あり方検討委員会設置要綱

(設置目的)

第1条 群馬県企業局（以下「企業局」という。）が設置している公の施設（ゴルフ場）は設置当初とは取り巻く状況が大きく変化していることから、老朽化したクラブハウスの改修や県営ゴルフ場運営等の今後のあり方について検討するため「群馬県営ゴルフ場事業あり方検討委員会」（以下「あり方検討委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 あり方検討委員会は、企業管理者の諮問に基づき次の事項について検討する。

- (1) 群馬県営ゴルフ場事業運営の今後のあり方に関する事
- (2) 利用者へのサービス提供のあり方に関する事
- (3) クラブハウス等のあり方に関する事
- (4) その他あり方検討に関する事

(組織)

第3条 あり方検討委員会は、委員5名以内で組織し、企業管理者が委嘱する。

2 委員は次の者から企業管理者が委嘱する。

- (1) 行政の分野に専門的知識を有する者（大学教授等）
- (2) 財務・経営に精通している者（公認会計士、税理士、中小企業診断士等）
- (3) 建築・土木に精通している者（大学教授、一級建築士等）
- (4) 施設利用代表者

3 あり方検討委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により選任する。

4 委員長に事故あるときは、委員のうちから委員長があらかじめ指名する者がその職務を代行するものとする。

(会議)

第4条 あり方検討委員会は、委員長が招集し、これを主宰する。

2 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外のものをあり方検討委員会に出席させ、その意見等を聴取することができる。

(任期)

第5条 委員の任期は、委嘱された日からその日の属する年度の末日までとする。

(対象施設)

第6条 本要綱によりあり方を検討する施設は、別表1のとおりとする。

(守秘義務)

第7条 委員は、委員の任期中又は任期終了後を問わず、その職務遂行上知り得た秘密を他に漏らし、又は不当な目的に利用してはならない。

(報酬)

第8条 委員報酬は日額とし、その額は企業管理者が定める。

(事務局)

第9条 あり方検討委員会の事務局は、企業局団地課に置くものとする。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、あり方検討委員会に関して必要な事項は、委員長があり方検討委員会に諮って定めるものとする。

附 則

この要綱は、令和3年5月31日から施行する。

(第6条関係)

別表1

○県営ゴルフ場対象施設

施設名	所在地
玉村ゴルフ場	佐波郡玉村町角淵
前橋ゴルフ場	前橋市川原町
板倉ゴルフ場	邑楽郡板倉町板倉
新玉村ゴルフ場	佐波郡玉村町川井

(2) 委員名簿

氏名	職業等	備考
桂川 修一	公認会計士	
高橋 康夫	(公財)群馬県建設技術センター FM室長 一級建築士	
松本 博崇	(公財)群馬県スポーツ協会 理事長	
宮嵜 文恵	弁護士	
米本 清	高崎経済大学地域政策学部 准教授	委員長

(五十音順 敬称略)

(3) 検討の経過

令和3年8月中	県営ゴルフ場利用者及び県内民間ゴルフ場支配人に対するアンケート調査実施
9月2日	第1回県営ゴルフ場事業あり方検討委員会開催 県営ゴルフ場の現状と課題について共有及び意見聴取
11月10日	第2回県営ゴルフ場事業あり方検討委員会開催 県営ゴルフ場及び各ゴルフ場の今後の方向性について意見聴取
令和4年1月21日 (書面開催)	第3回県営ゴルフ場事業あり方検討委員会開催 最終報告書案の作成
3月23日	第4回県営ゴルフ場事業あり方検討委員会開催 最終報告書の決定・企業管理者への報告

(4) 議事概要

第1回県営ゴルフ場事業あり方検討委員会 概要

開催日時：令和3年9月2日（木） 13：55～14：45

場 所：県庁27階 企業局特別会議室

出席者：（検討委員）5名、（事務局）7名

発言者等	主な意見等
委員	<p>上武ゴルフ場と前橋ゴルフ場を比較すると売上高が同じくらいだが、売上原価には大きな差があり、赤字と黒字の差が出ている。今後は指定管理者の売上原価の見直しも必要ではないか。</p>
委員	<p>県内のゴルフ場では15,000円程度で営業していたところが、27,000円程度に値上げをして高級路線に舵を切っているところがある。一方で、カジュアル化してサービスを省略化し、料金を下げているところもある。今までのようなゴルフ場と高級化、低価格化が混在している状況である。</p> <p>本来であればゴルフ場利用者数は減少していてもいいはずだが、団塊世代が想定よりも長くゴルフを続けているので、急激な減少には至っていない。</p> <p>県営ゴルフ場は平らであるため、高齢者が利用しやすい。また、ジュニアがより利用しやすい方向性でも良いのかも知れない。</p> <p>県内の他のゴルフ場の状況を見ながら、県営ゴルフ場の立ち位置を見極めながら考えていく必要があるというのが感想である。</p>
委員	<p>ターゲットをどこにするのか難しいが、20～40代を中心にターゲットとするならば、スループレー中心でお風呂もなく、すぐ帰れるというスタイルを若い人は求めているのではないかと思う。</p> <p>現実的には県営ゴルフ場の利用者は高齢者が多いため、若年層向けに切り替えても一気に利用者が若返ると思えず、高齢者のゴルフ場利用者は不満を持って離れていくと思われる。</p> <p>個人的な意見としては、スループレーのように純粋にスポーツとして楽しみ、短時間でプレーを終えて、時間を有効活用できた方が良いと思う。そういったスタイルが売りにできるのであれば、目指してもいいのではないか。</p>
委員	<p>施設的な面から申し上げると、ゴルフ場は県の公共施設に該当すると思うが、各ゴルフ場の長寿命化計画は作成するのか、あるいは既に作成しているのか確認したい。</p>

事務局	個別の計画はまだ作成していないと思われる。今後は検討すべき事項である。
委員	<p>情報提供として、雑誌の記事でアコーディアゴルフと PGM の社長インタビューが掲載されていた。アコーディアはカジュアルで気軽にプレーできるゴルフ場作りに取り組み、初心者や若年層の顧客獲得を狙う戦略であると言っている。一方の、PGM の社長も女性と若い顧客を獲得する戦略でありスループレーの普及が鍵になると言っている。</p> <p>県営ゴルフ場も若年層向けでもいいのではないか。</p>

委員から提出された意見書（順不同）

1. リスクを考慮した「ゴルフ場運営のあり方」に関する意見
県営ゴルフ場のプレースタイルについては、新型コロナの影響により、「スループレー」の需要が高まっているが、一方、昼食を取りたいという人も多いのが現状である。季節に応じてプレースタイルを選択できることが必要と考える。例えば、昼間の時間が長い時期は、早朝スルー・午後スルーと通常プレーの組み合わせなど、利用者のニーズに合わせてプレースタイルの提供等。
2. リスクを考慮した「クラブハウスのあり方」に関する意見
今般のコロナ禍にあって、感染リスクを下げるため、民間のゴルフ場においてもロッカー不使用を推奨しているところもある。コロナが収束しても、この傾向は継続することも想定される。玉村ゴルフ場はクラブハウスの建て替えにより、施設に係る評価が上がっており、クラブハウスが新しくなることは、利用客増にもつながると思われるが、改修等に要する経費と収入増を検討する必要がある。
3. 民間ゴルフ場との差別化に関する意見
県内の民間ゴルフ場においては、近年、高級志向と低価格・カジュアル志向の差別化が進んでいる面もあるものの、その中間に位置するゴルフ場が多数である。県営ゴルフ場も開設された時点に比して民間との利用料金の差も少なくなっている。県営ゴルフ場のメリットを生かし、料金だけではなく、県民、特に、高齢者や女性、ジュニアが利用しやすいゴルフ場として、民間との差別化を図ることが求められる。
4. 県営ゴルフ場の長期展望に関する意見
少子高齢化やレジャーに対する多様化が進むことに加え、現在、ゴルフ人口の大きな割合を占める団塊の世代が、順次、ゴルフからリタイアすることにより、ゴルフ人口の減少が懸念されている。この状況に対応するためには、ジュニアや女性、また、若い世代のゴルファーを増加させることが必要となる。今後、県営ゴルフ場は、県民にゴルフが気軽にできる場の提供、高齢者が健康増進のためにゴルフができる環境を提供していくことが求められる。

1. リスクを考慮した「ゴルフ場運営のあり方」に関する意見

水害や整備計画の状況から、修復や廃止の可能性もあるので、今後は施設は修復や撤去費用が高額にならない簡素なものにした方がいいと思います。

感染症対策の点から、今後も短時間で済むスループレーのニーズは続くと思うので、スループレー専門またはメインにできないかも検討すべきだと思います。

ただ、利用者アンケートからは、日本のゴルフ場の標準でしっかり食事をしてプレーしたい、という声が多く、意見がわかれていますし、スループレー専門ゴルフ場が普及していないことからすると、難しい点が多いと思われます。他のスループレー専門ゴルフ場の調査などをさらに行うべきだと思います。

県営ゴルフ場は4つあるので、今後の改修の際には1つはスループレー専門を前提とした施設にする試みもいいのではないかと思います。

2. リスクを考慮した「クラブハウスのあり方」に関する意見

利用者アンケートからは、レストランの設置は望まれており、スループレーでもプレー後に飲食をすることもありますので、レストランは設置した方がいいと思います。その場合は短時間で簡単な食事ができればいいと思います。

浴室は、今後の改修では、シャワーのみとし、スペースが確保できない場合は設置しなくてもいいと思います。利用者アンケートからはゴルフ場の近場の利用者が多いので、ロッカーも必要最小限にして、原則は着替えは家でしてくる、ということにすれば問題ないと思います。

利用者アンケートをみると、ゴルフ場の近さ、手軽さ、料金の安さを重視している利用者が多いことから、クラブハウスの充実は求められていないので簡素でも問題ないと思います。

また、4つのゴルフ場全てが同程度の設備を備える必要もないと思います。それぞれレストランやシャワーの設置は違いがあってもいいのではないのでしょうか。

3. 民間ゴルフ場との差別化に関する意見

利用者、支配人アンケートからも望まれている料金（県民割引など）の見直しは必要かと思います。

現状では、県営ゴルフ場もサービスがよいため、民間ゴルフ場とサービス内容に違いがないと思います。県営だから力を入れられること（ジュニア育成、初心者入門、高齢者のゴルフ継続支援、地域振興など）にさらに取り組むことが期待されていると思います。

4. 県営ゴルフ場の長期展望に関する意見

アンケートからは継続希望が多く、利用者も多く、河川敷の管理や治安にも役立っているので、継続は必要だと思います。

民間売却は、河川敷の管理の点から望ましくないように思います。

多くの県民がゴルフを気軽に楽しむための施設として、料金が安く、予約もとりやすく、利用しやすいゴルフ場を目指すべきだと思います。

一括の指定管理については、現在の指定管理者の意見なども参考にしたい方がいいと思います。

1. リスクを考慮した「ゴルフ場運営のあり方」に関する意見

水害の被害や遊水地計画などのリスクがあるとはいえ、現在相当程度に高度な利用がなされており、とくに高齢者県民の憩いの場となっていることから、実際にそれらの問題が生じるまでは利用を続けるのが現実的かと考えます。

河川敷ゴルフ場は水害以外の災害時に避難所等として活躍することが期待され、よりそれを見込んだ設備などの拡充が望ましいと考えます。

2. リスクを考慮した「クラブハウスのあり方」に関する意見

前橋や新玉村は施設の更新に合わせて耐震性など一般的な水準の向上が求められると考えます。なお上述のような問題が急に表面化する可能性を考慮すると、恒久利用を見込んだ豪華施設の建設は望ましくないものと考えます。

また将来の（プレーヤーの世代交代など）社会的なリスクに関しては、現在メインとなっている高齢者世代への対応のみにとらわれず、より未来的な利用に応じた施設の設計が求められると思います。

3. 民間ゴルフ場との差別化に関する意見

アンケートでは県営ゴルフ場の利用者も民間ゴルフ場の運営者も一致して県民により力点をおいた経営を求めており、県民割引など県民のためのゴルフ場としての役割が期待されていて、その役割を果たせば大半の方々から支持されると感じました。

4. 県営ゴルフ場の長期展望に関する意見

現在多くの利用者の方々から支持されていて、概ね黒字経営が続いているため、すぐに現状を損なう改革を行う必要はないものと考えます。

ただし、前橋や新玉村は施設の更新時期が近付いており、この際に将来を見込んだ一定の条件変更をすることも考えられます。とくに前橋に関してはもし現状維持する場合でも用途地域・打球の問題などをクリアする必要があります。また上述のような各リスクを考慮する必要があるものと思います。

1. リスクを考慮した「ゴルフ場運営のあり方」に関する意見

① 自然災害の影響・国土省の河川整備計画

当該リスクについては、自然が相手であり、また立地条件からも被災しやすい土地にあるため、今後発生する可能性は高い。発生した時の費用は「県営ゴルフ場の復旧費用」を参考に各ゴルフ場で引当計上することが望ましい。具体的な金額は、例えば合計金額の10分の1を毎月計上することで良いのではないかと考える。(10年に1度という災害を想定)

そのうえで、毎期の損益がプラスとなるように経費の見直しをすることが必要である。

② 民間ゴルフ場のプレー料金下落

公営ゴルフ場が民間を圧迫しているという意見もあるが、これは根拠に乏しい意見である。なぜならば、そもそも利潤を追求する民間と公営の成り立ちの違いがあり、会員権を販売して預託金を集めて運営するゴルフ場とビジネスモデルが全く違うからである。料金だけに着目して、圧迫云々を議論するのはナンセンスである。

そのうえで、公営ゴルフ場として、サービスに見合った料金設定になっているかを考えるべきである。これについては、3で詳細に検討する。

群馬県民割引などの料金設定も望ましい。

③ 新型コロナウイルスによるゴルフ場利用者のニーズの変化

ゴルフ場利用者の変化をみると、スループレー、レストラン、浴室、ロッカーの使用方法についての懸念が多い。コロナ禍以前からこうしたニーズはあり、それに対応するか否か、投資効果が得られるのかといった観点から再検討する事項である。これについては2、3で再検討する。

2. リスクを考慮した「クラブハウスのあり方」に関する意見

老朽化したクラブハウスの再建は1. ③のコロナリスクでのレストラン、浴室、ロッカーと関連する。また、これはどのようなプレースタイルを提供するかに密接に関連する。スループレーを基本とすれば、レストランは単なる休憩所でもよく、浴室もシャワー程度、ロッカーも不要である。その場合は、主に近隣の人が中心となり、東京などから客を呼ぶにはプレー料金が重要となる。

玉村と新玉村のクラブハウスは共用にできないか？共用の場合指定管理者も同じにする必要がある。またレストラン等は必要になる。

クラブハウスは民間のレストランやカフェに賃貸し、一部をクラブハウスとして、軽食が取れるような体制にできないか？営業時間も夜まで営業できるかの検討も必要である。

3. 民間ゴルフ場との差別化に関する意見

先に述べたように、スループレーや早朝、薄暮、一人予約などはこのゴルフ場でも行っている方法である。日本のゴルフ場でドレスコードの撤廃を公にしているところは少ない。すなわち、「Tシャツ、短パンでのプレーである。民間では表立って注意しないが、「プレーにふさわしいスタイル」といったポスターは掲示してある。

実際ハワイなどのリゾートゴルフでは、Tシャツ、短パンは常識となっており、はじめての人もプレーしやすくハードルを下げている。この点をアピールするのもよいかと思う。

シニア層は抵抗感あるが、若い若年層は昔を知らないから、むしろ抵抗感がなく参加できるはずである。

4. 県営ゴルフ場の長期展望に関する意見

・アメリカのゴルフ場はパブリックが多いが、そのゴルフ場はそこにあるコミュニティ（住居）の中にあるゴルフ場で、コミュニティに住んでいない人が訪れるためには、検問があるところが多い。したがって、ゴルフ場はそのコミュニティに住んでいる人が手軽にラウンドできるようになっており、近いがゆえ風呂やロッカーは必要とされていない。日本でいえば、新軽井沢ゴルフ場は、近隣の別荘に住んでいる人が利用し、風呂は利用する人は少ないのと同じイメージである。

また、クラブハウスはコミュニティの人のカフェであり、ゴルフしない人も訪れており、夜遅くまで営業をしている

公営ゴルフ場も群馬県民のコミュニティゴルフ場として、アメリカのパブリックに近く差別化を進めるのがよいと思う。

・ジュニアの育成、ゴルフ人口の増加はこれからの必須の課題である。そのため、県営ゴルフ場でゴルフ連盟主催のゴルフ教室を定期的開催する。レッスンとハーフラウンドを組み合わせたプログラムも良いと思う。

・同じスタイルのゴルフ場を4つ運営するのではなく、立地や運営目的に沿った差別化したゴルフ場にするのが良い。そのうえで、民間スタイルのゴルフ場へ売却など M&A を行うことも選択肢としてはある。

・玉村と新玉村を一体として管理するのは良い方法であると思う。隣接しているからこそ、別のプレースタイルを確立して運営するほうが良いのであり、それに応じて名称もわかりやすく変更するのが望ましい。

・プレー人口の減少は、今の日本の人口比率を見れば当然のことである。20代30代の人々がどのようなスポーツを行っているかを調べる必要があるが、昨今のプロゴルファーの年齢構成をみると、若い人でゴルフをする人が昔に比べ増えているはずである。そうでなければいきなり世界で勝てる選手が出てくることはできないはずである。そうであれば、これからは、ジュニア・女性・シニア層をターゲットにし、そのニーズに合ったプレースタイルを提供し、それに応じてクラブハウスも改装すべきである。ジュニア育成に積極的に取組めば、その人は将来シニアとなってゴルフ場を支える客になるに違いない。

提案

今後差別化の実現に向けての問題点と課題、そして解決案を検討すべきである。

① 玉村と新玉村の一体運営。新玉村は群馬オープンができるよう、より戦略性やメンテナンスを行い、ベントグリーンへの移行。パブリック選手権の群馬会場はここのみとし、県アマなども積極的に行う。市町村対抗やその他コンペなどの積極的勧誘。玉村はよりカジュアルに、自然と楽しめるようなリゾートをイメージする。

② 前橋Gはスループレー、一人予約、ドレスコードなし、カート乗り入れ（2名用カートの導入）とする。この場合メンテナンス費用との兼ね合いを考慮すべき。クラブハウスは休憩所とし、民間会社のカフェやレストランに貸し出す。

③ 板倉も、前橋と同じような方向で良い。

ただし、県境にあり、群馬県民に特化することなく、周辺地域の身近なゴルフ場にする方向で良いと思う。

最後に

公営ゴルフ場であるので、民間と同じようなサービスをする必要はない。民間が重荷に感じている、また経費が掛かりすぎる点をそぎ落とし、明確なターゲットを決めて、そこに集中する方向で行うべき。

1. リスクを考慮した「ゴルフ場運営のあり方」に関する意見

時代の変化と共に、プレーヤーのプレイスタイルや楽しみ方も変わってきているところです。ゴルフのイメージが庶民的なスポーツと捉えられつつある現状を考慮すると、アンケートで多く示されているように、気軽にプレイできる施設運営とすることが肝要と思慮いたします。また、予測のつかない自然災害の発生が起こる昨今、災害対応を含めた運営マニュアルの作成が必要と思慮いたします。

2. リスクを考慮した「クラブハウスのあり方」に関する意見

団体コンペにおいては、従前はアルコールを伴う表彰パーティが行われていましたが、現在は、簡素化されている実態が見受けられます。また、民間支配人の多くがアンケートで、昼食を取ってのプレイが少数であることが、示されていることから、食堂の運営は、廃止若しくは縮小の方向で如何かと思慮いたします。また、アンケートでも多く出されていた入浴施設についても廃止・縮小することで、検討することを望みます。

3. 民間ゴルフ場との差別化に関する意見

県営ゴルフ場のイメージとして、先ず上げられることが「リーズナブル」性であり、利用設備の整備度が高いことは求められていません。そこで、リーズナブル性を前面に押し出し、幅広い年代の方々が利用し易いように、県内最安値を設定し、アピールする必要があるのではないのでしょうか。民間の低料金化もあるので、根拠付けに、サウディングを十分に行うことも肝要です。

4. 県営ゴルフ場の長期展望に関する意見

県が、平成28年3月に策定した公共施設等総合管理計画では、方向性として「状況に応じて必要な改修等を計画的に進め、修繕・改修計画を策定する」と示していますが、現状施設を全て改修することは、財政的に難しいと思われますので、長期的には1施設に限定して、予防保全を心掛けると共に、施設の長寿命化計画を策定し、維持保全することが肝要と思慮いたします。また、県民に愛されるゴルフ場運営を心掛けることを要望いたします。

第2回県営ゴルフ場事業あり方検討委員会 概要

開催日時：令和3年11月10日（水）9：50～10：55

場 所：県庁27階 企業局特別会議室

出席者：（検討委員）5名、（事務局）8名

発言者等	主な意見等
委員	<p>総論について</p> <p>近くにあり、県民が気軽にゴルフが出来る施設が必要である。 料金の見直しは難しい部分があり、あまり低料金化すると民業圧迫となるので、全体を低料金化するのではなく、県民向けの割引がよいのではないかな。</p> <p>県営ゴルフ場にドレスコードがあるとの認識はなかったが、気軽にゴルフに行けるという意味では良いのではないかな。</p> <p>玉村はクラブハウスの建替を行ったため、インターネット上では設備に対するクチコミ評価が高いが、他のゴルフ場について同等の高額なクラブハウスを建てることは難しいと思われる。</p>
委員	<p>「今後」という表現について、10年後なのか20年後を見据えるのか、期間の追記が必要と思われる。</p> <p>気軽にゴルフができる、ドレスコードの廃止、料金の見直し等は今後の県営ゴルフ場の歩む道だと思われる。</p> <p>いつ災害が起こるかわからないので、利用者の安全確保が出来るよう、災害対応のマニュアル化の検討はしていただきたい。</p>
委員	<p>アンケート結果についても、カジュアル志向や健康志向の回答が多かったので、気軽に行けてすぐに帰れるといった方向性で良いのではないかな。</p> <p>ドレスコードの廃止については、県営ゴルフ場内にTシャツや短パンでプレー可能等の内容をポスター等で掲示して周知する方法でもよいのでは。</p>
委員	<p>カジュアルに気軽にゴルフを楽しむ方向性でよいと思う。</p> <p>高齢者の料金は現状でも安くなっており、お得感があるが、若い人も割引によってお得と感じられるので、県民割引は良いと思う。</p> <p>県民割引について、現在は実施されているのか。</p>
事務局	<p>板倉ゴルフ場で実施しており、割引額は500円程度である。</p>

委員	意見があった、「今後」の期間についての表記や、ドレスコード廃止のポスターによる周知などについても賛成である。
委員	<p>玉村ゴルフ場について</p> <p>玉村ゴルフ場については、建替前は非常に設備が古く、狭いクラブハウスであったが、建替後も料金が変わらず利用できているので、利用者は非常に恩恵を受けている。しかし、他のゴルフ場のクラブハウスも同じように更新していくのかと言えば、これは別問題と考えている。</p> <p>玉村ゴルフ場と新玉村ゴルフ場はコースが隣接しているが、例えば玉村ゴルフ場のクラブハウス1つのみにして、合計36コースの利用者全員をさばくことができるのか課題である。この点は検討する必要がある。</p> <p>アンケート結果を見ても、新玉村ゴルフ場の方が若い利用者が多い。玉村ゴルフ場のターゲット層は高齢者向け等がいいのではないかな。</p> <p>玉村ゴルフ場は、計画的な予防保全により、より長く玉村ゴルフ場の施設を使用できるようにしていただきたい。</p> <p>県内の民間ゴルフ場の例であるが、1つのゴルフ場内でいくつかのコースをシャッフルして組み替えを行っていた例がある。</p> <p>可能かどうかは検討の必要があるが、玉村ゴルフ場と新玉村ゴルフ場も、コースの長短でコース全体を再編成し、2つのゴルフ場に分ける検討をしてみても良いのではないかな。</p> <p>玉村ゴルフと新玉村ゴルフ場の一体管理・運営は36ホール間の距離が長く、移動に時間がかかるので難しいのではないかな。この議論について数年で結論を出すのは厳しいと思われる。</p> <p>新玉村ゴルフ場では県オープン選手権等の大会が開催されているが、もし玉村ゴルフ場のクラブハウス1つで運営した場合、利用者をさばききれないのではないかな。そういった部分では不安がある。</p> <p>玉村ゴルフ場はコースの距離が短いので、ターゲットは女性や高齢者が良いのではないかな。</p> <p>クラブハウスは立派なものなので、現状のものを長く利用できるようお願いしたい。</p> <p>新玉村ゴルフ場との一体管理・運営についてはクラブハウスが両ゴルフ場の真ん中に位置していれば検討の選択肢が広がったかも知れない。</p> <p>物理的に一体ということではなく、両方のクラブハウスは残したままで1つの指定管理者が玉村と新玉村ゴルフ場の運営を行うといった検討でも良いのではないかな。</p> <p>いずれにしても、現実性を考えて検討をしていく必要はある。</p>

	<p>前橋ゴルフ場について</p> <p>委員 前橋ゴルフ場は県民や前橋市民の利用者が多いが、施設は狭かったり、周辺が住宅であったり課題が多い。 スループレーは良いが、食事が全くとれないことは問題と思われるので、ホットドックのような軽食程度はとれるようにした方が良いのではないかな。 夏場はシャワーだけでも浴びたいという利用者はいると思われる。 レストランや浴室等の縮小や廃止をどこまで行うか、検討課題である。 前橋ゴルフ場の形態から考えて、ジュニアの育成、女性、高齢者等のターゲットは良い方向性だと思う。</p> <p>委員 前橋ゴルフ場については、施設が古いが何とか活用していただきたいと思う。 スループレーの方向性で前向きに検討していただき、ゴルフ場を維持していただきたい。</p> <p>委員 スループレーとしたときに、どこまで食事をしてもらうかは検討課題である。 例えば、3ホールごとにキッチンカーを配置して、ベンチで食事してもらい、プレーヤーはパスを選べるようにすれば、スループレーの特色が出せるのではないかな。</p> <p>委員 キッチンカーの案は良いと思うが、手を挙げる業者がいるかが懸念される場所である。 前橋ゴルフ場は都市型のゴルフ場であり、近所から来場しやすい立地であるので、カジュアル化して実験的にスループレー主体としてもよいのではないかな。</p> <p>委員 前橋ゴルフ場の利用状況は高いので、急な変更を行うと利用者に変化についていけるかどうか懸念されるが、世代交代のタイミングで変更できれば良い。 委員から出た意見の方向性で良いのではないかな。</p>
--	--

<p>委員</p>	<p>板倉ゴルフ場について</p> <p>スループレー専用とするにしても、食事をとれる環境はあった方がいいのでは。</p> <p>スループレーは待ち時間を少なく回していくことが難しい。夏期の早朝や薄暮を利用すればうまくいくかもしれない。</p> <p>プレーを始めて2～3時間すると何か食べたくなる。</p> <p>空腹のままプレーをすると後半は体力的に厳しくなる。</p> <p>前橋ゴルフ場と比べると、板倉ゴルフ場の県内・県外の利用者割合は大きく異なるため、スループレー専用は周辺ゴルフ場との競争性を考慮して十分に検討した方がよい。</p> <p>板倉ゴルフ場の魅力は都内や近隣県から近くて安いところにあると思われる。近隣ゴルフ場にスループレーを行うゴルフ場が少なければ、対抗できるのでは。</p> <p>「県営としては廃止」という選択肢については、色々な角度から検討していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>この時代に建設された公共施設全般に共通することだが、今までのメンテナンスが不十分であったために、老朽化への対応に追われる結果となっている。今は現有施設をいかに長く使用するかといった方向性にシフトしている。</p> <p>板倉ゴルフ場に関しては、民間提案制度等を利用してみてはいかがか。</p>
<p>委員</p>	<p>板倉ゴルフ場は他県と隣接している特殊性がある。周辺はゴルフ場が密集しているため、県営ゴルフ場としての運営継続について、再検討という意見も出てくるのではないか。</p> <p>板倉ゴルフ場の運営スタイルとして、スループレーでの運営は困難かも知れない。</p>
<p>委員</p>	<p>板倉ゴルフ場は県外のゴルフ場より安いといった魅力があり、県外からの利用者が多く来ていると思われるので、施設や設備は立派なものでも利用者は集まると思う。</p> <p>板倉ゴルフ場の運営スタイルにスループレーはマッチしないのではないか。そこまで大幅なスタイルの変更をする必要もないのでは。</p> <p>利用者も多い施設なので、今の建物を維持しながら継続する方法でもいいのではないか。</p> <p>板倉ゴルフ場の周辺には、他のゴルフ場も多くあるので、将来的には県営としての運営継続についての検討もあり得るかも知れない。</p> <p>板倉ゴルフ場のクラブハウスの劣化状況はどの程度なのか。</p>

<p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>板倉ゴルフ場については、ボイラーや空調関係機器の故障の頻発、建物内部にある給排水管が特に劣化している状況である。躯体にも影響を与えている可能性が高いので、長く続けるためには建物にかなり手を入れる必要があると考えている。</p> <p>立地条件により他県利用者が多いことや、500円の県民割引をしているが、基本的に県営らしさが出ていないといった状況から、県営として行うかどうか検討することも現実味が出ているのではないかと。</p> <p>クラブハウスの建替前後で運営を変更するのか、プレースタイルを変更した直後に民営になってしまうのか等、議論すべき課題は多いと思われるが、委員会としての提言の可能性はある。</p>
<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p>	<p>新玉村ゴルフ場について</p> <p>玉村ゴルフ場と新玉村ゴルフ場の一体管理や一体運営については、物理的な部分なのか、運営的な部分なのかで考え方が異なる。</p> <p>36ホールで玉村のクラブハウス1つのみでは利用者を受けきれないと思う。また、36ホールにした場合、カートの移動にも時間がかかる。バスでの輸送も考えられるが、費用面の問題がある。物理的な管理・運営は十分検討する必要がある。</p> <p>ターゲットについては、若年層もターゲットにしても良いのではないかと。また、広いゴルフ場でしっかりとジュニア育成をする方向性で良い。</p> <p>玉村ゴルフ場との一体運営・一体管理については、ノウハウを持った人の意見を得た方が良いのではないかと。</p> <p>ターゲットのジュニア強化には賛成である。</p> <p>クラブハウスを一つにするのは現実的ではないと思われる。</p> <p>1つの指定管理者に両ゴルフ場を管理させることで、コストを下げる方法は考えられる。</p> <p>新玉村ゴルフ場はアスリート向けを前面に出していった方がよい。グリーンも可能であればベントに変更することも検討してはいかかか。</p> <p>ゴルフ人口を増やすといった意味で、最初は玉村ゴルフ場で始めて、ある程度、上達したら新玉村ゴルフ場でプレーするといった、段階的な支援も示せたら良いのでは。</p> <p>新玉村ゴルフ場のアスリート向けやターゲットのジュニア強化は適している。</p> <p>一体管理や一体運営は十分な調査が必要ではないかと。</p> <p>若年層の利用者が多いゴルフ場なので、キッチンカーや軽食販売を行</p>

委員	<p>い、スループレー専用の検討も可能ではないか。スループレーの方が新玉村ゴルフ場の特徴を出していけると思う。</p> <p>しかし、施設を簡素化してスループレーの施設にしてしまうと、県オープン選手権等の大会開催時はキャパシティを超えてしまう恐れがあるため、実現は難しいかも知れない。</p> <p>県営ゴルフ場ではジュニアは料金を取らずに、いつでも回り放題ぐらいにしてもいいのではないか。</p> <p>既に玉村ゴルフ場に立派なクラブハウスがあり、利根川水系利根川・江戸川河川整備計画がある中で、長期的には新玉村ゴルフ場に大きなクラブハウスを建てるのは適切ではないと思われるが、より効率的な運営を行い、さらに利用価値が高い施設ができればよいと考えている。</p>
----	--

第3回県営ゴルフ場事業あり方検討委員会 概要

開催日時：令和4年1月21日（金）

開催方法：書面開催

発言者等	主な意見等
委員	<p>総論の「県営ゴルフ場の継続は必要である。」の表現について、「将来的に設置主体の変更や更なる民間事業者のノウハウの活用方法を検討することも選択肢の一つである。」との記載があることから、「総合的にみて、県営ゴルフ場事業の継続は必要である」との表現に変更を検討してはどうか。</p>
委員	<p>アンケート調査から、前橋ゴルフ場の利用者は70歳以上でゴルフ歴も長く、健康志向で月2回以上利用する人が他のゴルフ場に比べ多いことがわかる。この年齢層はスループレーにはあまり慣れていなく、従来のスタイルに馴染んでいると思われる。</p>
委員	<p>玉村ゴルフ場は、ゴルフを気軽に楽しみたいというエンジョイ派の人が多く集まるようなので、この人たちをターゲットとして行うので良いと思う。</p>
委員	<p>新玉村ゴルフ場は、アンケート結果の年齢層やゴルフ場に求めることの回答から、どちらかという競技志向の利用者や30代、40代の積極的なゴルファーが多いように見受けられる。今後もこの傾向は続くと思われるため、ターゲットをここに絞った施策が望まれる。</p>
委員	<p>板倉ゴルフ場について、「現状のプレースタイルでの継続を検討されたい。」という表現は、現状のプレースタイルが良いと積極的に勧めているようにも読めるので、削除、または、「プレースタイルの変更は、利用者の状況や周辺ゴルフ場との関係を考慮して検討されたい。」といった表現に変更した方が良いのではないかと。</p>
委員	<p>玉村ゴルフ場のクラブハウスについては、長期的な保全計画を策定する必要があると思われる。</p> <p>また、玉村ゴルフ場を除く他の3つのゴルフ場については、劣化調査を行うことも視野に入れる必要がある。</p>

2 アンケート調査結果

(1) 県営ゴルフ場利用者（全体）

ゴルフ場利用者アンケート調査結果					
ゴルフ場	調査日/件数	調査日/件数	調査日/件数	調査日/件数	合計
玉村ゴルフ場	8月18日(水)	8月19日(木)	8月21日(土)	8月22日(日)	4日
	32件	49件	32件	32件	145件
前橋ゴルフ場	8月20日(金)	8月21日(土)	8月22日(日)	8月23日(月)	4日
	35件	37件	33件	31件	136件
板倉ゴルフ場	8月19日(木)	8月20日(金)	8月21日(土)	8月29日(日)	4日
	38件	41件	36件	25件	140件
新玉村ゴルフ場	8月18日(水)	8月19日(木)	8月21日(土)	8月22日(日)	4日
	38件	40件	31件	35件	144件

(4ゴルフ場合計 回答数565件)

本検討委員会における論点（例）に係るアンケート結果

1. 今後の営業スタイルやクラブハウスについて

■ゴルフ場運営のあり方

従来どおりの「昼食をとってプレーしたい」が最も多かったが、「スループレーのみでも良い」と「カジュアルに気軽にプレー出来るゴルフ場の方が良い」も多数の回答があった。

■クラブハウスのあり方

「風呂がなくともシャワーがあれば問題ない」が最も多かった。

2. 民間ゴルフ場との差別化について

・県営ゴルフ場のクラブハウスは「古くても構わない」もしくは「簡素な作りでよい」と考えられているが、料金については現在と同水準又は、より安価な設定を求められている。

・現状では利用者が高齢者に偏重しているが、「子供から高齢者まで、広く県民から親しまれるゴルフ場」を求められている。

3. 県営ゴルフ場の長期展望について

・回答者の半数が60歳以上であり、高齢者の割合が高い。

・県営ゴルフ場はアクセスの良さと低廉な価格、気軽さが評価された。

・一方で、回答者の67%は県営及び民間の両方のゴルフ場を利用しているが、どちらのゴルフ場も選ぶ理由が「アクセスの良さ」「料金が手頃」であり、設置主体でゴルフ場を選ぶ傾向はうかがえなかった。

アンケート結果の概要

普段プレーするゴルフ場について

大多数が県営・民間ゴルフ場の両方を利用しているが、県営・民間ゴルフ場を選ぶ理由はともに「交通の便が良い/自宅から近い」、「料金が手ごろ」が多数であった。

一方で、民間ゴルフ場を選ぶ理由では「クラブハウスや設備が良いから」はあまり選択されていない。県営ゴルフ場の利用者においては、設備面の評価はあまり重視していない傾向がある。

年間パスポートの要否について

特定の県営ゴルフ場を繰り返し利用することが多くないためか、年間パスポートの要否は意見が拮抗した。

県民割引の要否について

回答者の56%が県外居住者であったが、県民割引については70%が必要と回答した。

プレースタイル、設備やコースについて

プレースタイルは、従来どおりの「昼食をとってプレーしたい」が最も多かったが、「スループレーのみでも良い」と「カジュアルに気軽にプレー出来るゴルフ場の方が良い」も多数の回答があった。プレースタイルの転換を許容できる利用者も一定数いる結果となった。

設備やコースについては、「風呂がなくてもシャワーがあれば問題ない」が最も多く、シャワーだけでも十分と感じている利用者が多い結果となった。

県営ゴルフ場の要否について

必要と思うが97%となった。気軽さや、低廉な価格、アクセスの良さが評価された。

アンケート結果の概要

1. 回答者の属性

年齢	回答者の50%が60歳以上
性別	回答者の84%が男性
居住地	回答者の56%が県外居住者
ゴルフ歴	回答者の79%が6年以上のゴルフ歴がある
プレー志向	カジュアル志向が49%と最も多く、次いで健康志向が37%となった
ラウンド回数(年間)	平均して月に1回以上プレーしている利用者が70%となった

アンケート結果の概要

2. 普段プレーするゴルフ場

普段プレーするゴルフ場	回答者の67%が県営・民間の両方を利用している
県営ゴルフ場を選ぶ理由	「交通の便が良い/自宅から近い」「料金が手ごろ」の理由が多数
民間ゴルフ場を選ぶ理由	「交通の便が良い/自宅から近い」「料金が手ごろ」の理由が多数

アンケート結果の概要

3. 料金等について

年間パスポートの要否	要否ともにほぼ半数の意見となった
県民割引の要否	必要と思うが70%となった
料金設定について	適正と思うが67%で最も多くなった
クラブハウスや料金等について	「クラブハウスは古くても料金は変わらない方が良い」が50%で最も多く、次いで、「簡素なクラブハウスでよいので、料金をもっと安くした方が良い」が31%となった

アンケート結果の概要

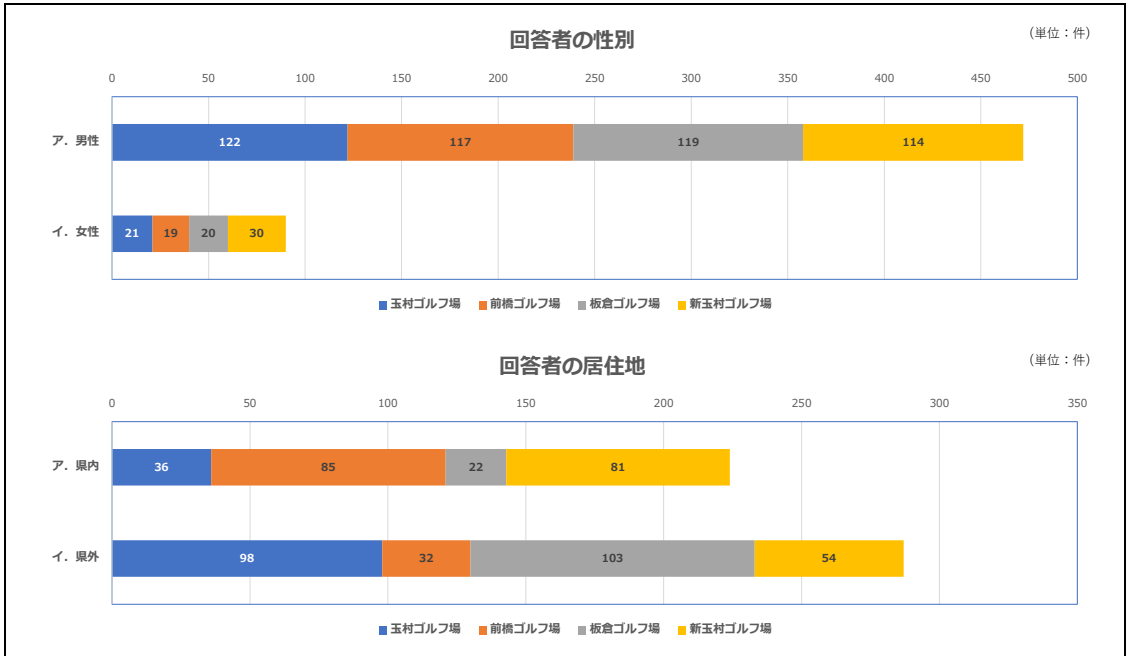
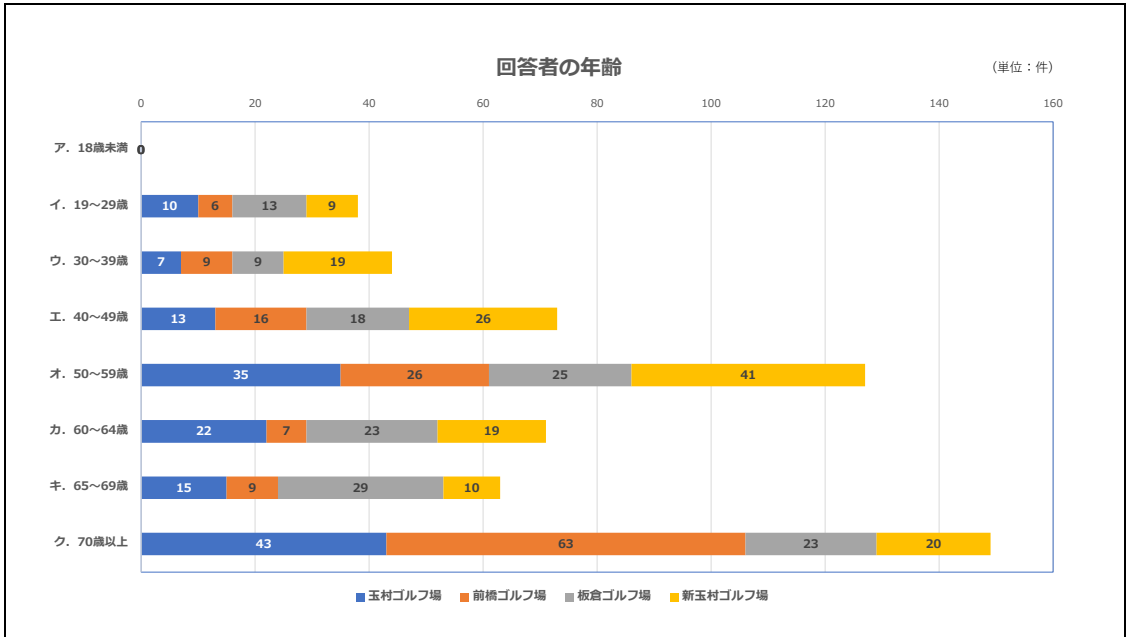
4. プレースタイル、設備やコースについて

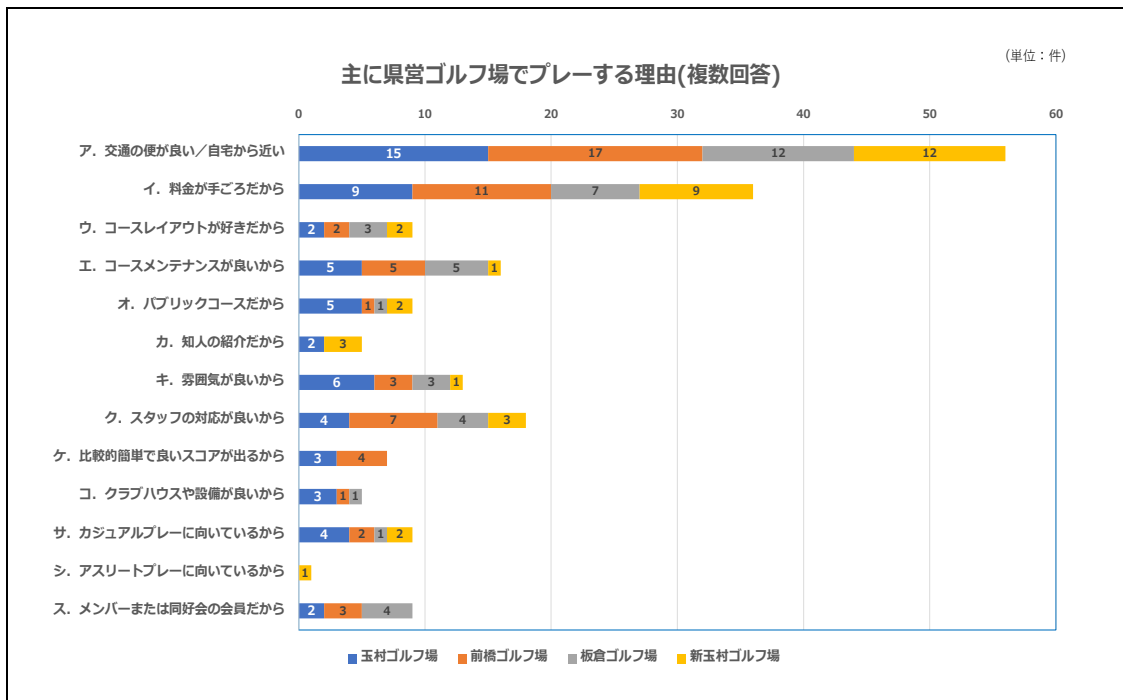
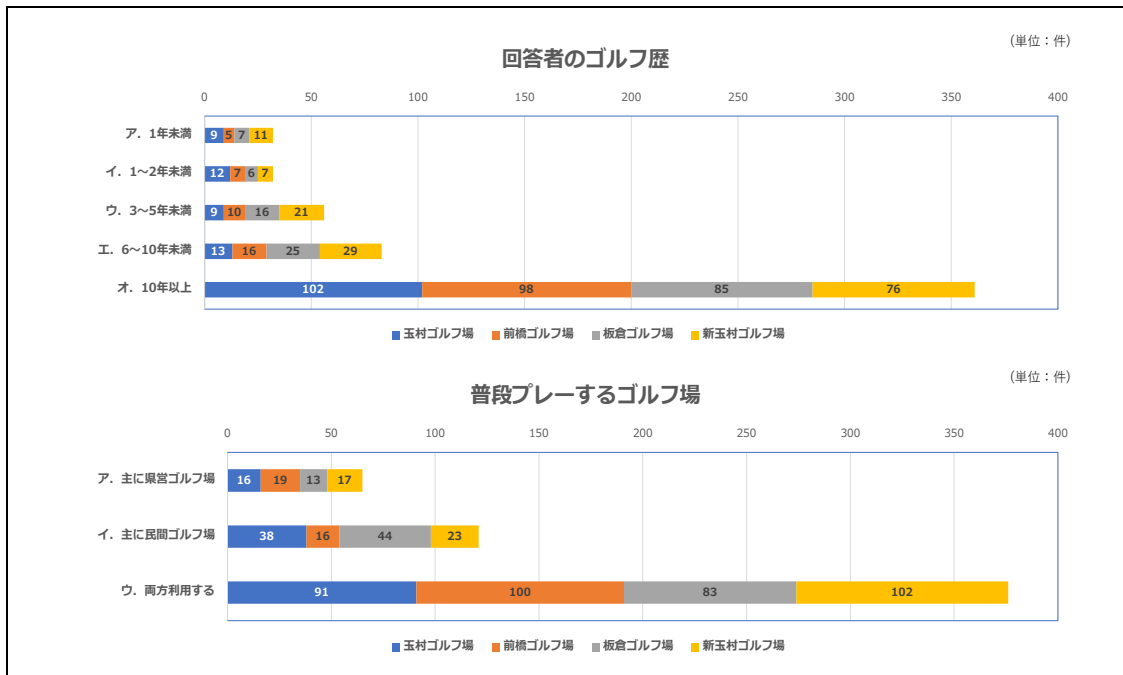
プレイスタイルについて	「しっかりと昼食をとってプレーしたい」が最も多かったが、「スループレーのみでも良い」と、「カジュアルに気軽にプレー出来るゴルフ場の方が良い」も多数の回答があった
設備やコースについて	「風呂がなくてもシャワーがあれば問題ない」が最も多かった

アンケート結果の概要

5. 県営ゴルフ場の要否等について

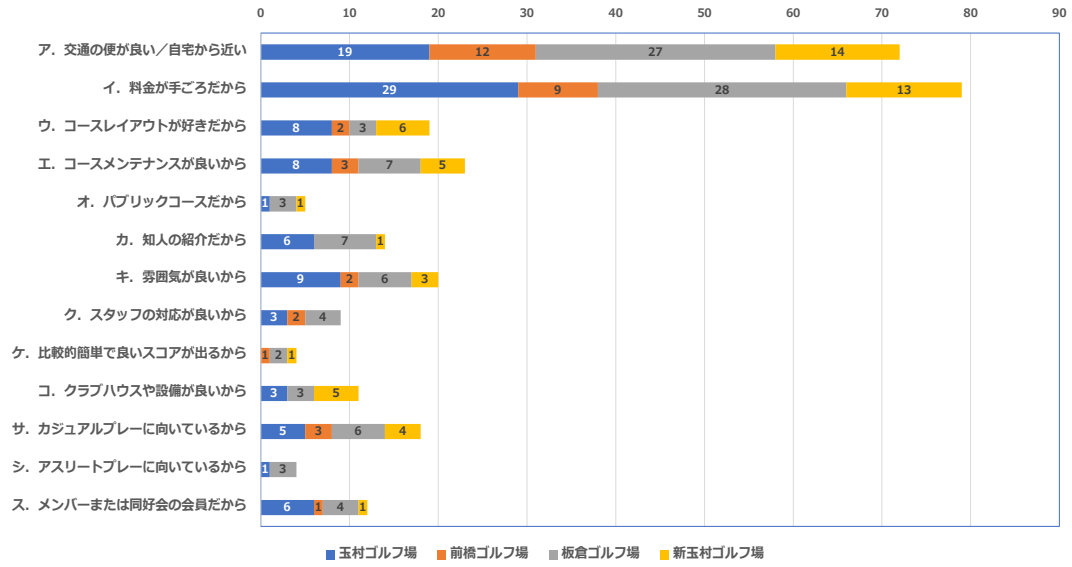
今後の県営ゴルフ場に期待すること	「子供から高齢者まで、広く県民から親しまれるゴルフ場」が最も多かった
県営ゴルフ場の要否	必要と思うが97%となった
県営ゴルフ場が必要と思う理由	「気軽にプレーできるから」「料金が手ごろだから」「交通の便が良い/自宅から近い」が多数となった
県営ゴルフ場が必要と思わない理由	「民間ゴルフ場と料金差が少ない」「民間ゴルフ場だけでも十分な選択肢がある」が選択された

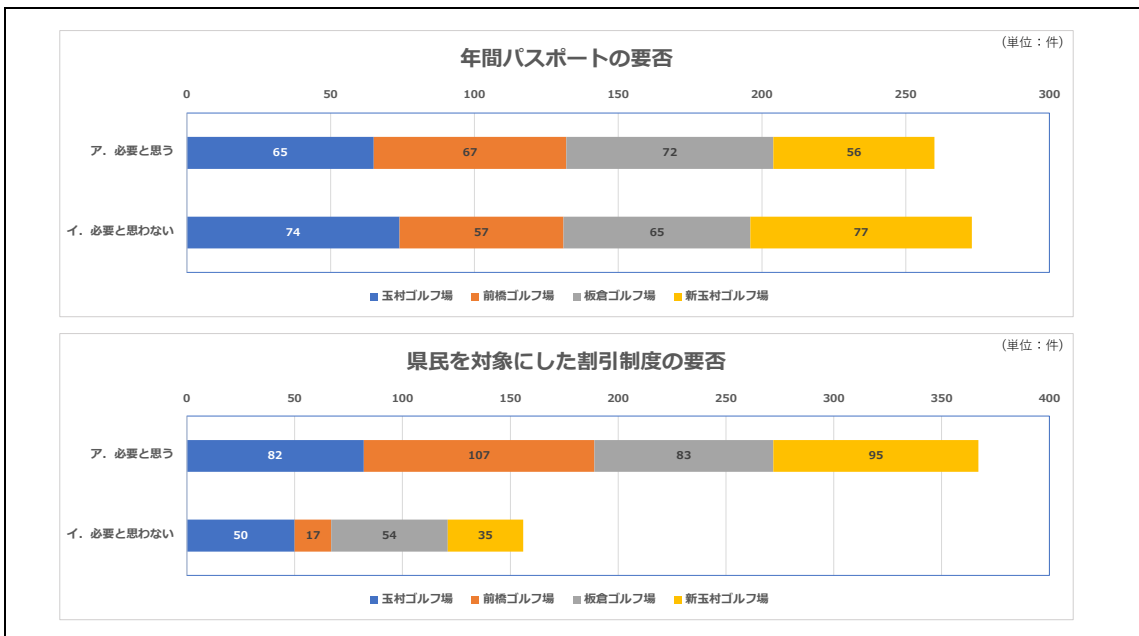
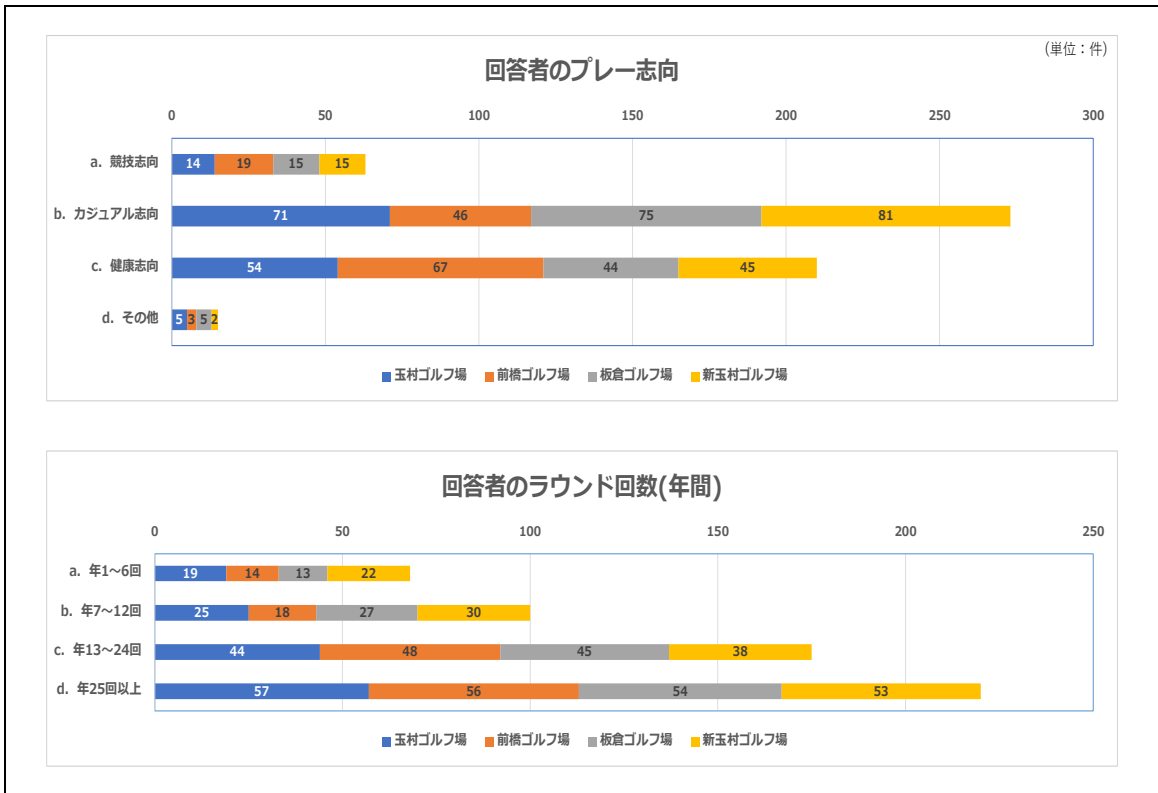


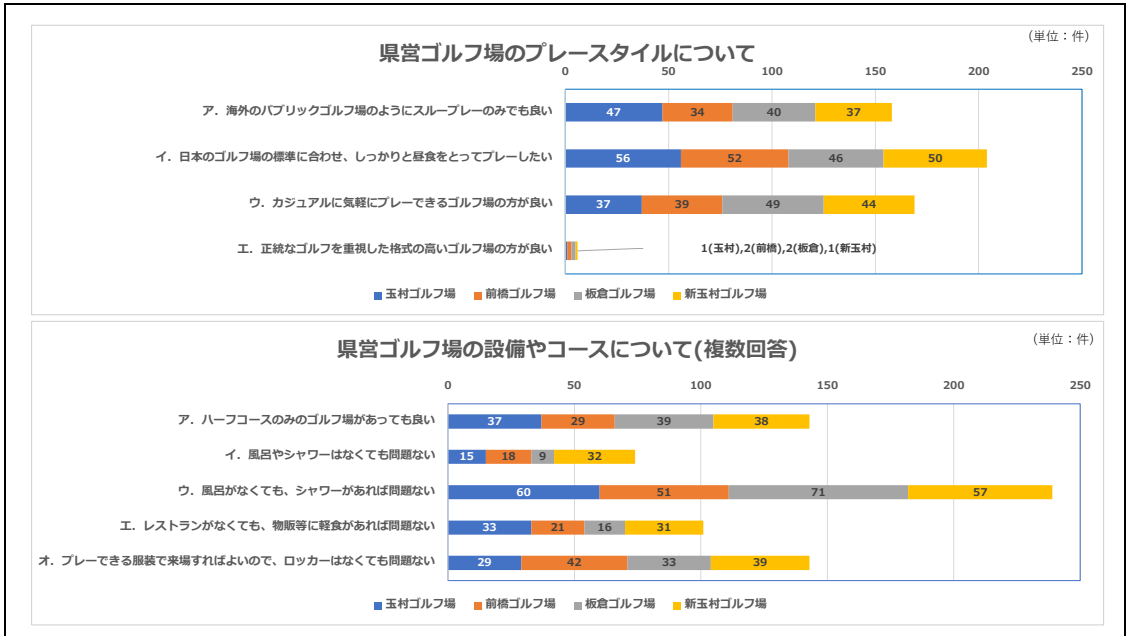
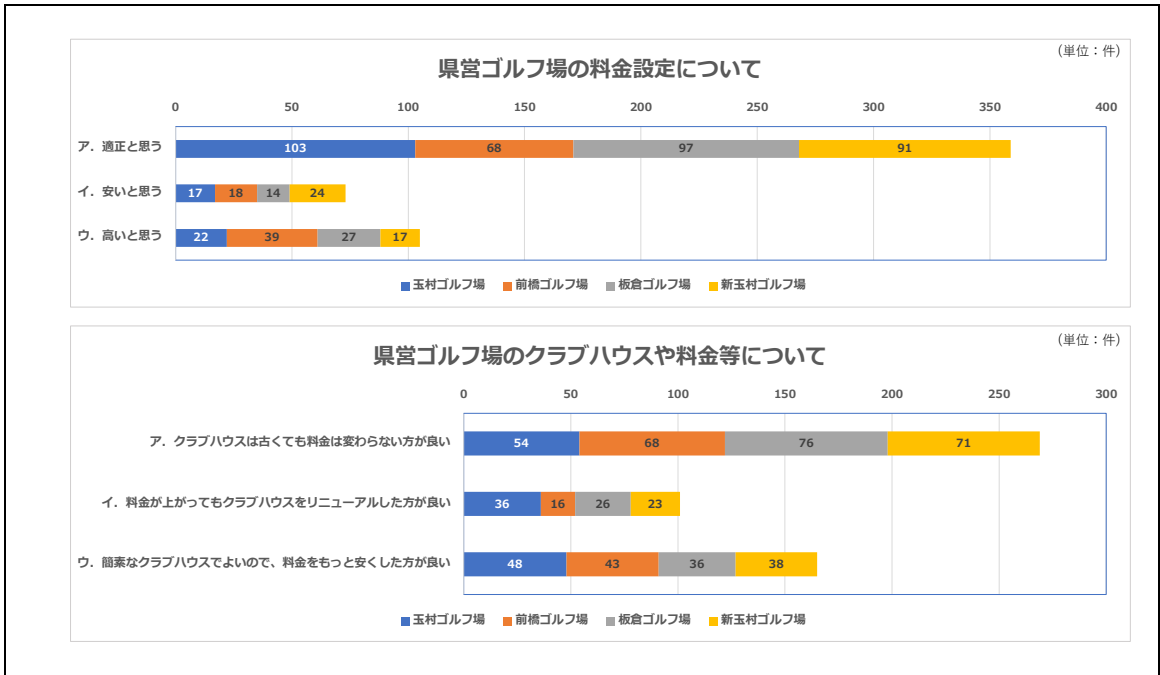


主に民間ゴルフ場でプレーする理由(複数回答)

(単位：件)







県営ゴルフ場の設備やコースについて(カ. その他の意見)

玉村ゴルフ場

- ・今のままが良い
- ・現状のままで良い

板倉ゴルフ場

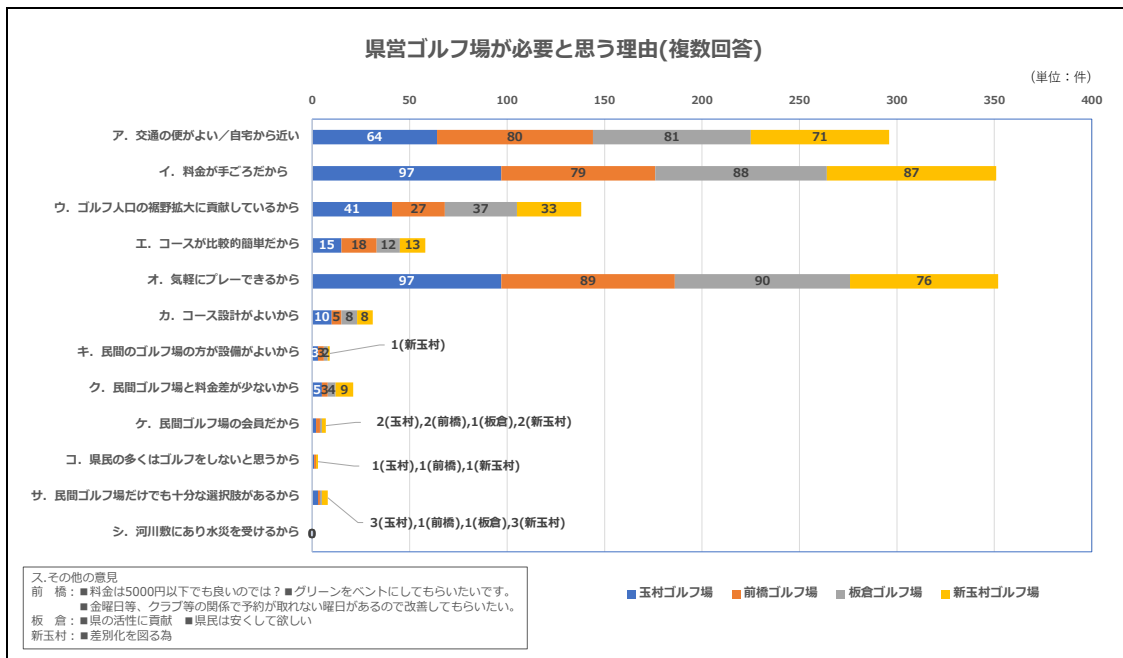
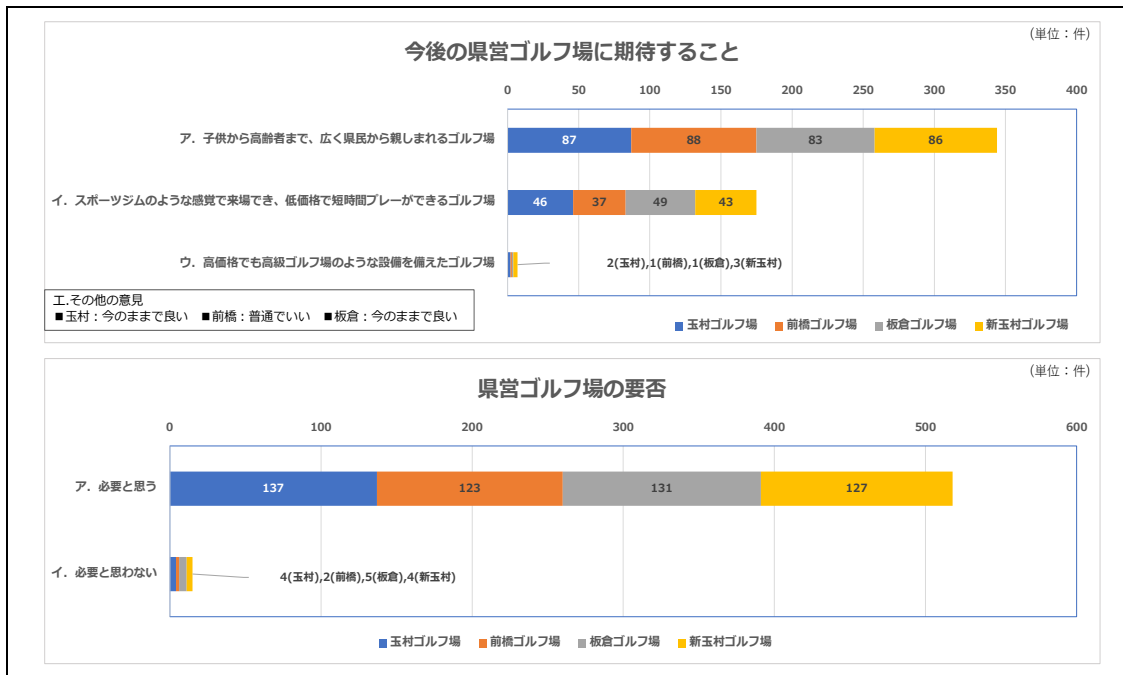
- ・風呂は必要
- ・風呂、シャワー、ロッカーは欲しい
- ・設備は必要
- ・コース整備
- ・今のままでよい(2件)

前橋ゴルフ場

- ・風呂あれば良い
- ・風呂は必要(2件)
- ・風呂シャワーは必要
- ・健康の為に食事、風呂は当然あるべき
- ・民間と同じに
- ・普通でいい

新玉村ゴルフ場

- ・ゴルフ場での設備はしっかり有るべき
- ・スループレー
- ・カート乗り入れ



県営ゴルフ場が必要と思わない理由（複数回答）

■県営ゴルフ場の要否について

- イ. 必要と思わない・・・回答数 15 件
（玉村 4 件、前橋 2 件、板倉 5 件、新玉村 4 件）

必要と思わない主な理由

- キ. 民間のゴルフ場の方が設備が良いから・・・2 件
（前橋 1 件、板倉 1 件）
- ク. 民間ゴルフ場と料金差が少ないから・・・6 件
（玉村 1 件、前橋 1 件、板倉 3 件、新玉村 1 件）
- ケ. 民間ゴルフ場の会員だから・・・1 件
（板倉 1 件）
- コ. 県民の多くはゴルフをしないと思うから・・・2 件
（玉村 1 件、板倉 1 件）
- サ. 民間ゴルフ場だけでも十分な選択肢があると思うから・・・3 件
（前橋 1 件、板倉 1 件、新玉村 1 件）

(2) 県営ゴルフ場利用者（県内居住者）

ゴルフ場利用者アンケート調査結果

【県内居住者】

回答数	玉村ゴルフ場	前橋ゴルフ場	板倉ゴルフ場	新玉村ゴルフ場	合計
全体	145件	136件	140件	144件	565件
県内	36件	85件	22件	81件	224件

本検討委員会における論点（例）に係るアンケート結果（県内）

1. 今後の営業スタイルやクラブハウスについて

■ゴルフ場運営のあり方

従来どおりの「昼食をとってプレーしたい」が最も多かったが、「スループレーのみでも良い」と「カジュアルに気軽にプレー出来るゴルフ場の方が良い」も多数の回答があった。

■クラブハウスのあり方

「風呂がなくてもシャワーがあれば問題ない」が最も多かった。また、「ロッカーは不要」と考えている利用者も多かった。

2. 民間ゴルフ場との差別化について

・県営ゴルフ場のクラブハウスは「古くても構わない」もしくは「簡素な作りでよい」と考えられているが、料金については現在と同水準又は、より安価な設定を求められている。

・現状では利用者が高齢者に偏重しているが、「子供から高齢者まで、広く県民から親しまれるゴルフ場」を求められている。

3. 県営ゴルフ場の長期展望について

・回答者の54%が60歳以上であり、高齢者の割合が高い。

・県営ゴルフ場はアクセスの良さと低廉な価格、気軽さが評価された。

・一方で、回答者の69%は県営及び民間の両方のゴルフ場を利用しているが、どちらのゴルフ場も選ぶ理由が「アクセスの良さ」「料金が手頃」であり、設置主体でゴルフ場を選ぶ傾向はうかがえなかった。

アンケート結果の概要（県内居住者）

普段プレーするゴルフ場について

大多数が県営・民間ゴルフ場の両方を利用しているが、県営・民間ゴルフ場を選ぶ理由はともに「交通の便が良い/自宅から近い」、「料金が手ごろ」が多数であった。

一方で、民間ゴルフ場を選ぶ理由では「クラブハウスや設備が良いから」はあまり選択されていない。県営ゴルフ場の利用者においては、設備面の評価はあまり重視していない傾向がある。

年間パスポートの要否について

各ゴルフ場毎に割合は異なるが、年間パスポートの要否は全体の54%が必要と回答した。

県民割引の要否について

県内居住者の利用者のうち、県民割引については91%が必要と回答した。

プレースタイル、設備やコースについて

プレースタイルは、従来どおりの「昼食をとってプレーしたい」が最も多かったが、「スループレーのみでも良い」と「カジュアルに気軽にプレー出来るゴルフ場の方が良い」も多数の回答があった。プレースタイルの転換を許容できる利用者も一定数いる結果となった。

設備やコースについては、「風呂がなくてもシャワーがあれば問題ない」が最も多く、シャワーだけでも十分と感じている利用者が多い結果となった。また、「ロッカーは不要」と考えている利用者も多かった。

県営ゴルフ場の要否について

必要と思うが97%となった。気軽さや、低廉な価格、アクセスの良さが評価された。

アンケート結果の概要（県内居住者）

1. 回答者の属性

年齢	回答者の54%が60歳以上
性別	回答者の85%が男性
ゴルフ歴	回答者の83%が6年以上のゴルフ歴がある
プレー志向	カジュアル志向が42%と最も多く、次いで健康志向が41%となった
ラウンド回数(年間)	平均して月に1回以上プレーしている利用者が76%となった

アンケート結果の概要（県内居住者）

2. 普段プレーするゴルフ場

普段プレーするゴルフ場	回答者の69%が県営・民間の両方を利用している
県営ゴルフ場を選ぶ理由	「交通の便が良い/自宅から近い」「料金が手ごろ」の理由が多数
民間ゴルフ場を選ぶ理由	「交通の便が良い/自宅から近い」「料金が手ごろ」の理由が多数

アンケート結果の概要（県内居住者）

3. 料金等について

年間パスポートの要否	必要と思うが54%となった
県民割引の要否	必要と思うが91%となった
料金設定について	適正と思うが63%で最も多くなった
クラブハウスや料金等について	「クラブハウスは古くても料金は変わらない方が良い」が41%で最も多く、次いで、「簡素なクラブハウスでよいので、料金をもっと安くした方が良い」が40%となった

アンケート結果の概要（県内居住者）

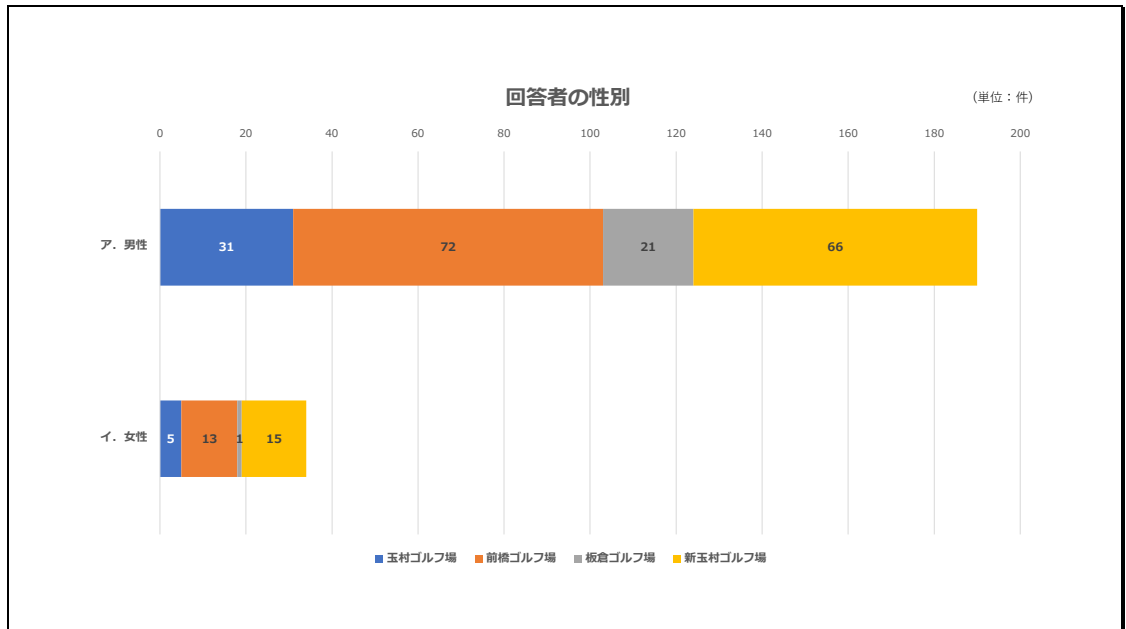
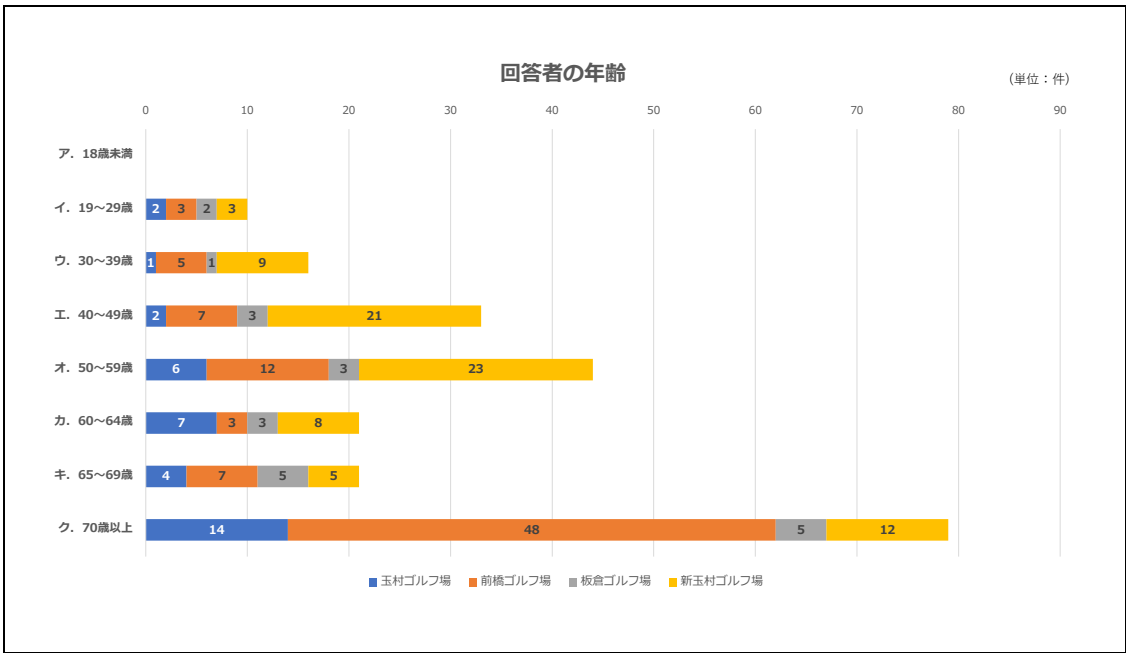
4. プレースタイル、設備やコースについて

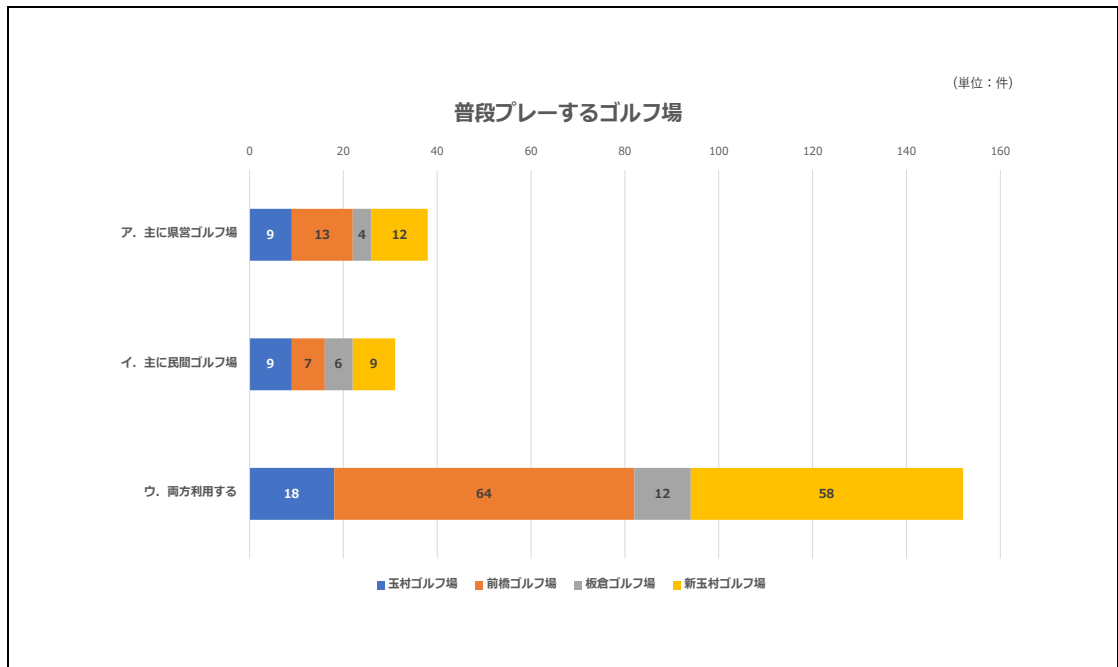
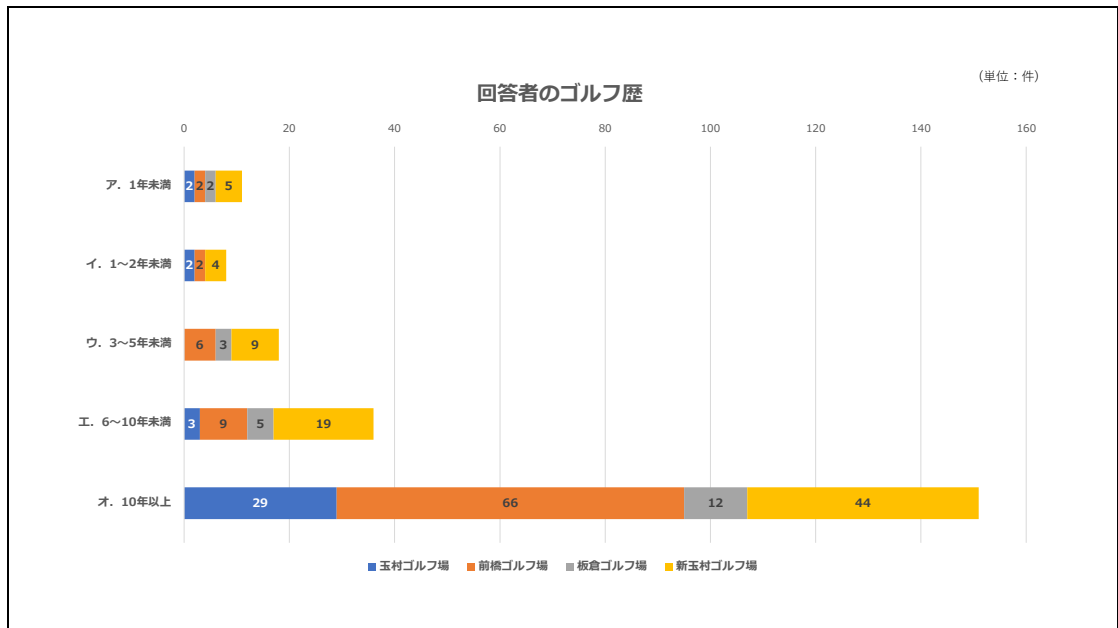
プレースタイルについて	「しっかりと昼食をとってプレーしたい」が最も多かったが、「スループレーのみでも良い」と、「カジュアルに気軽にプレー出来るゴルフ場の方が良い」も多数の回答があった
設備やコースについて	「風呂がなくてもシャワーがあれば問題ない」が最も多く、次いで「ロッカーは無くても問題ない」が多かった

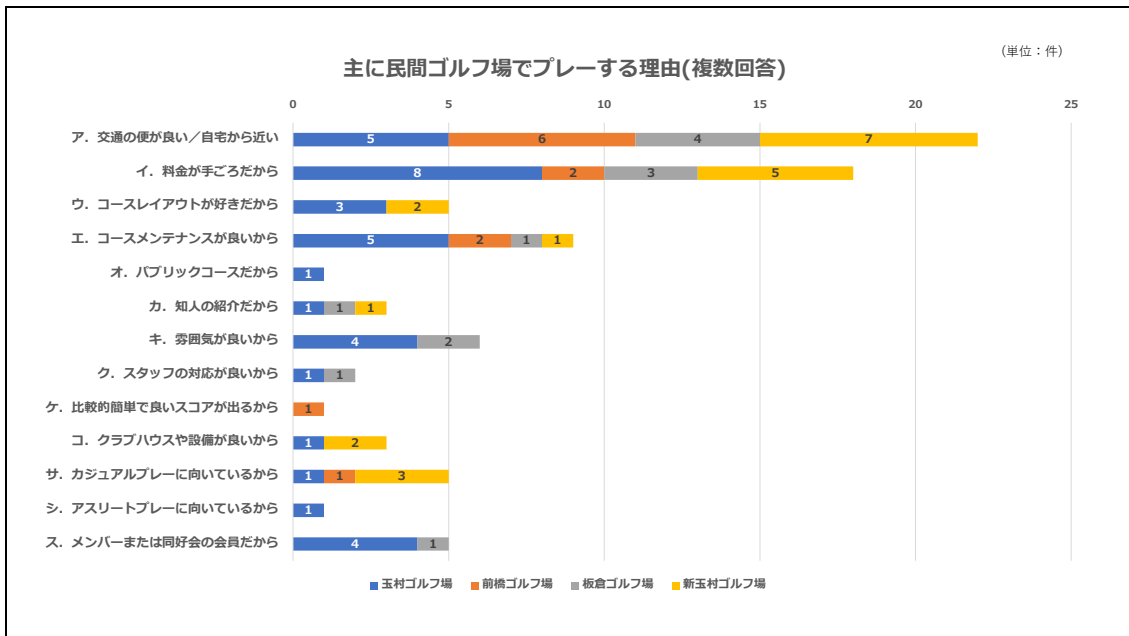
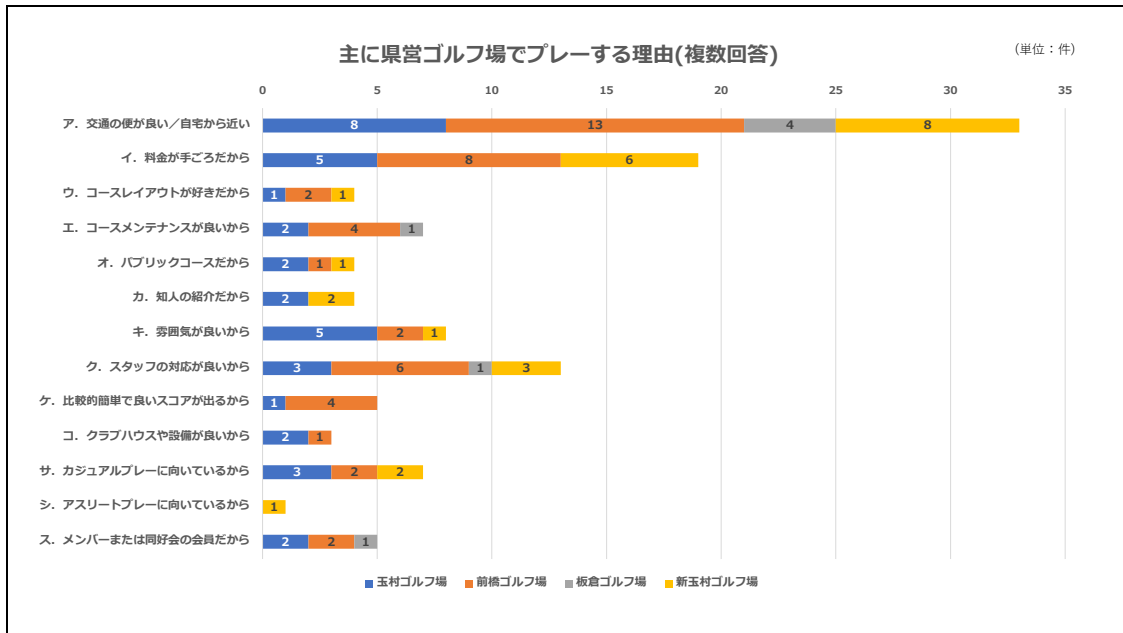
アンケート結果の概要（県内居住者）

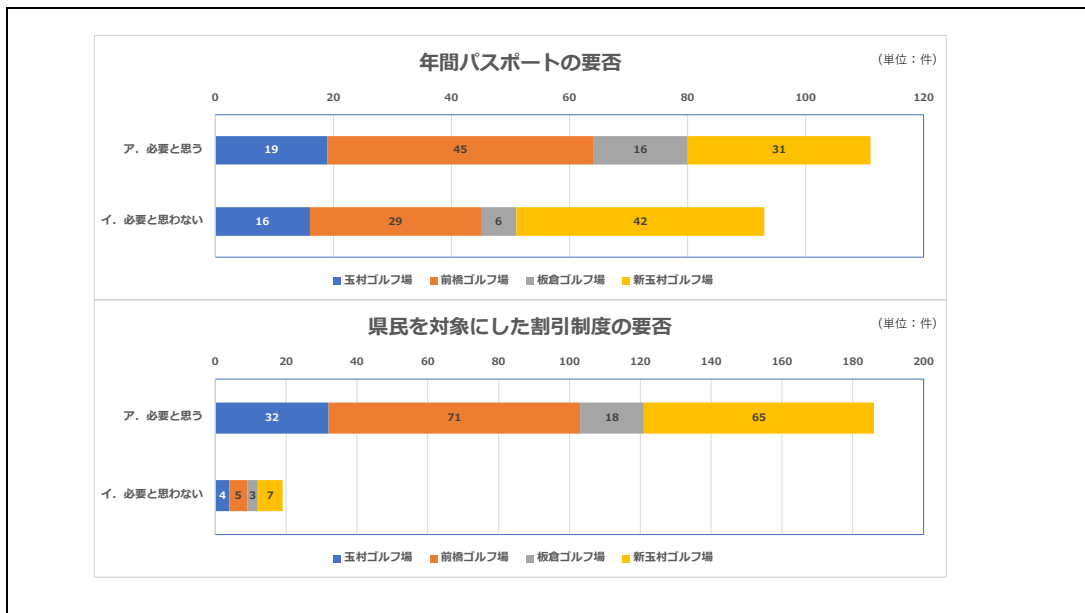
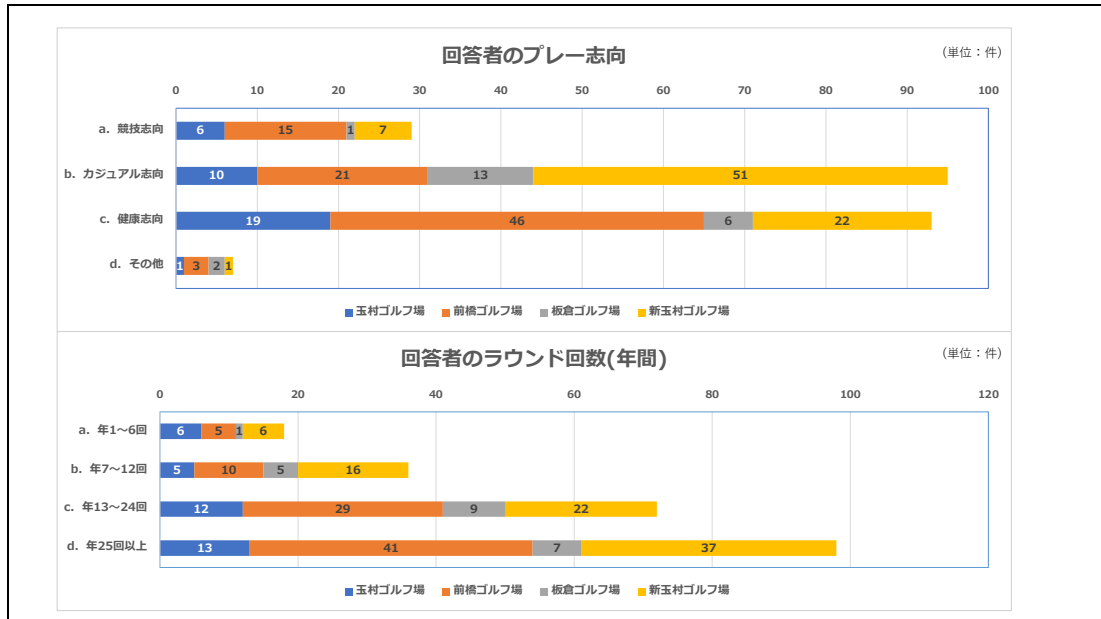
5. 県営ゴルフ場の要否等について

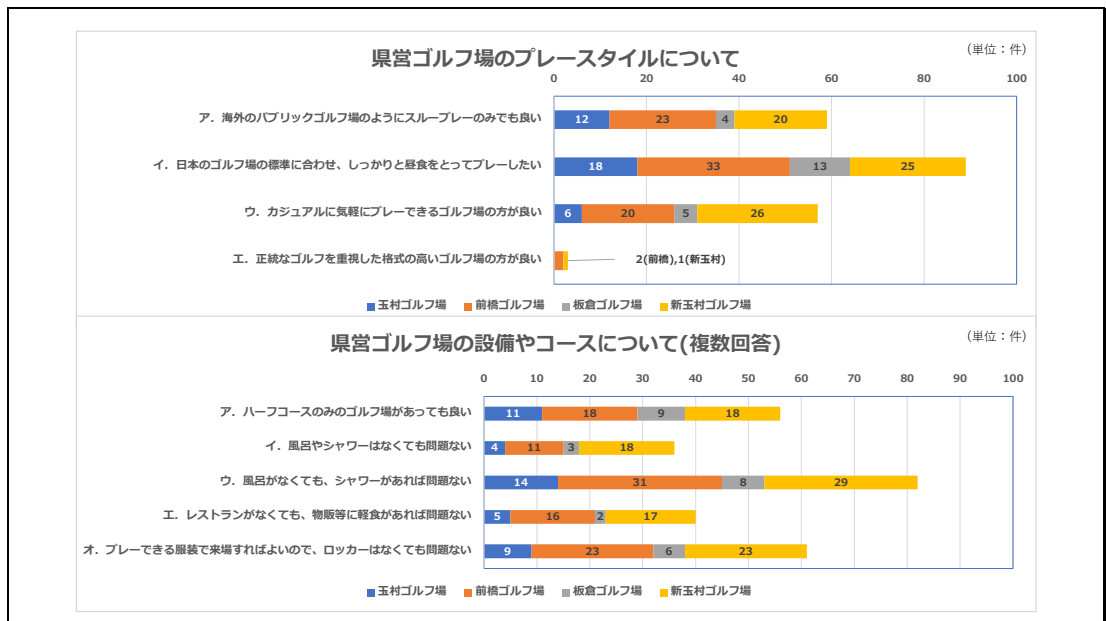
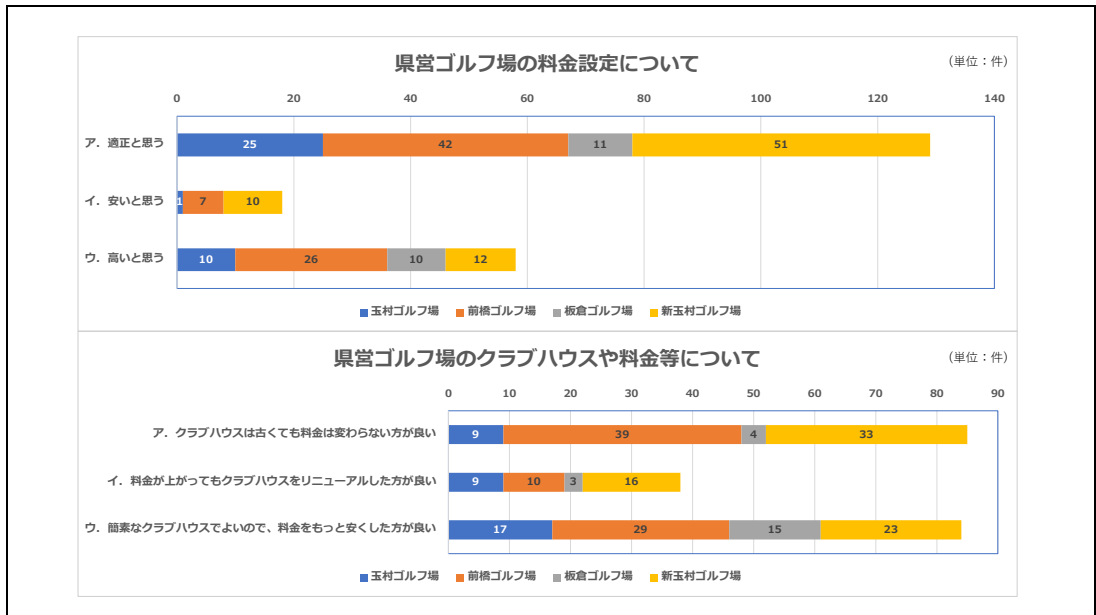
今後の県営ゴルフ場に期待すること	「子供から高齢者まで、広く県民から親しまれるゴルフ場」が最も多かった
県営ゴルフ場の要否	必要と思うが97%となった
県営ゴルフ場が必要と思う理由	「気軽にプレーできるから」「交通の便が良い/自宅から近い」「料金が手ごろだから」が多数となった
県営ゴルフ場が必要と思わない理由	「民間の方が設備がよい」「民間ゴルフ場と料金差が少ない」「民間ゴルフ場だけでも十分な選択肢がある」が選択された











県営ゴルフ場の設備やコースについて(カ. その他の意見)

玉村ゴルフ場

- ・今のままが良い
- ・現状のままで良い

板倉ゴルフ場

- ・コース整備

前橋ゴルフ場

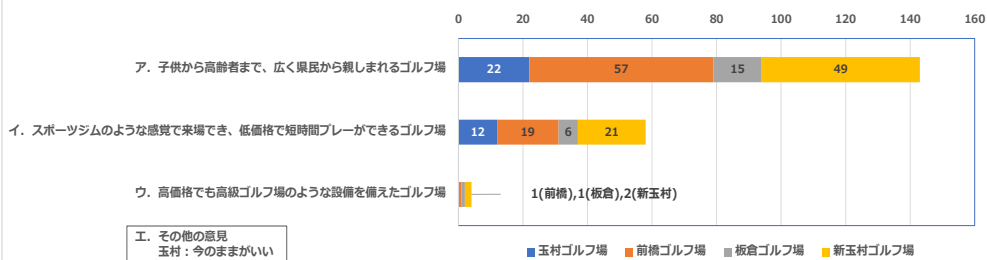
- ・風呂あれば良い
- ・風呂は必要
- ・風呂シャワーは必要
- ・健康の為に食事風呂は当然あるべき
- ・民間と同じに

新玉村ゴルフ場

- ・ゴルフ場での設備はしっかり有るべき
- ・スループレー
- ・カート乗り入れ

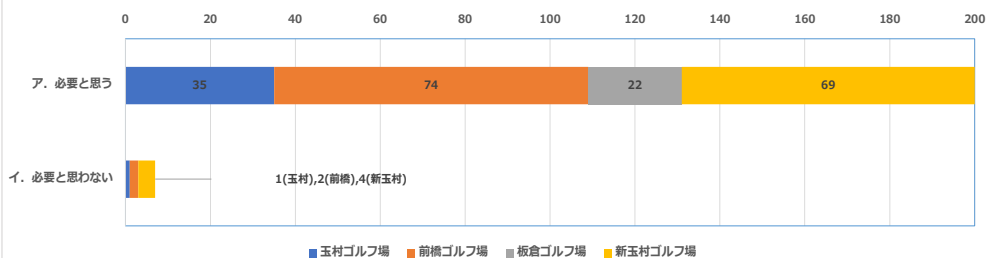
今後の県営ゴルフ場に期待すること

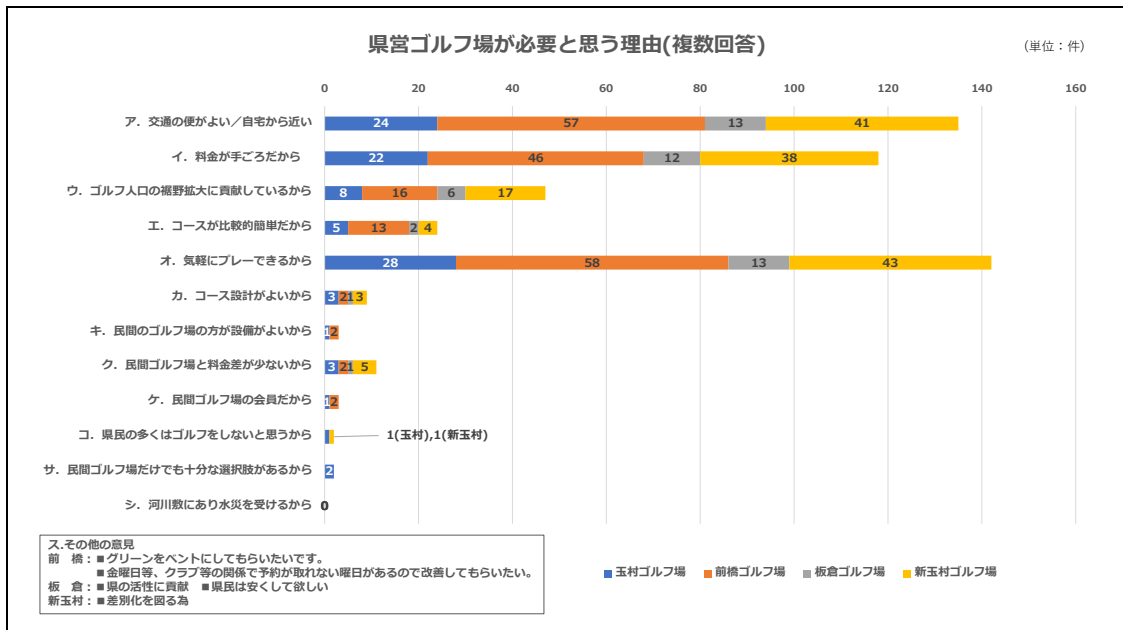
(単位：件)



県営ゴルフ場の要否

(単位：件)





県営ゴルフ場が必要と思わない理由 (複数回答)

- 県営ゴルフ場の要否について
- イ. 必要と思わない・・・回答数 9 件
(玉村 0 件、前橋 3 件、板倉 0 件、新玉村 6 件)

必要と思わない主な理由

- キ. 民間のゴルフ場の方が設備が良いから・・・ 1 件
(前橋 1 件)
- ク. 民間ゴルフ場と料金差が少ないから・・・ 2 件
(前橋 1 件、新玉村 1 件)
- サ. 民間ゴルフ場だけでも十分な選択肢があると思うから・・・ 2 件
(前橋 1 件、新玉村 1 件)

(3) 県内民間ゴルフ場支配人

【県内民間ゴルフ場支配人】

アンケート調査結果

群馬県ゴルフ協会加盟ゴルフ場数	回答ゴルフ場数	回答率
49件（県営4ゴルフ場除く）	39件（県営4ゴルフ場除く）	約80%

本検討委員会における論点（例）に係るアンケート結果（民間ゴルフ場支配人）

1. 今後の営業スタイルやクラブハウスについて

■ゴルフ場運営のあり方

従来どおりの「昼食をとってプレー」は少数であり、「スループレーのみでも良い」「カジュアルに気軽にプレー出来るゴルフ場の方が良い」が多く回答された。

■クラブハウスのあり方

利用者が満足するような設備が必要との意見もあったが、「風呂がなくてもシャワーがあれば問題ない」が最も多く、次いで「レストランがなくても軽食があれば問題ない」が多く回答され、**設備の簡素化に関する意見が多かった。**

2. 民間ゴルフ場との差別化について

・「シニア、女性、ジュニアが利用しやすいゴルフ場」「県民の利用割合を高める」「県営独自の運営を行う」「**県民に対する利用料の優遇**」等の意見が多く挙げられており、**ゴルフ場利用者の増加への貢献**を求められている。

3. 県営ゴルフ場の長期展望について

- ・県営ゴルフ場は「**裾野拡大に貢献している**」と評価された。
- ・一方で、**県外利用者の多さが指摘**されている。
- ・**ジュニアや初心者プレーヤーの受け皿**への期待や、**気軽にプレー出来る**ことが求められている。

アンケート結果の概要（民間ゴルフ場支配人）

県営ゴルフ場の要否について

39件中38件が必要と思うと回答。必要と思わないと回答したゴルフ場は(3)以降の設問には回答しなかった。
必要な理由としては「裾野拡大に貢献している」が最も多かった。また、その他の意見では、「シニア、女性、ジュニアが利用しやすいゴルフ場」とした方がよいとの意見が多く挙げられた。

プレースタイル、設備やコースについて

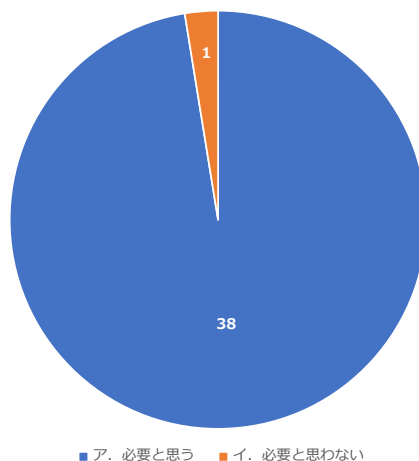
プレースタイルは、「スループレーのみでも良い」が最も多く、次いで「カジュアルに気軽にプレー出来るゴルフ場の方が良い」が多かった。

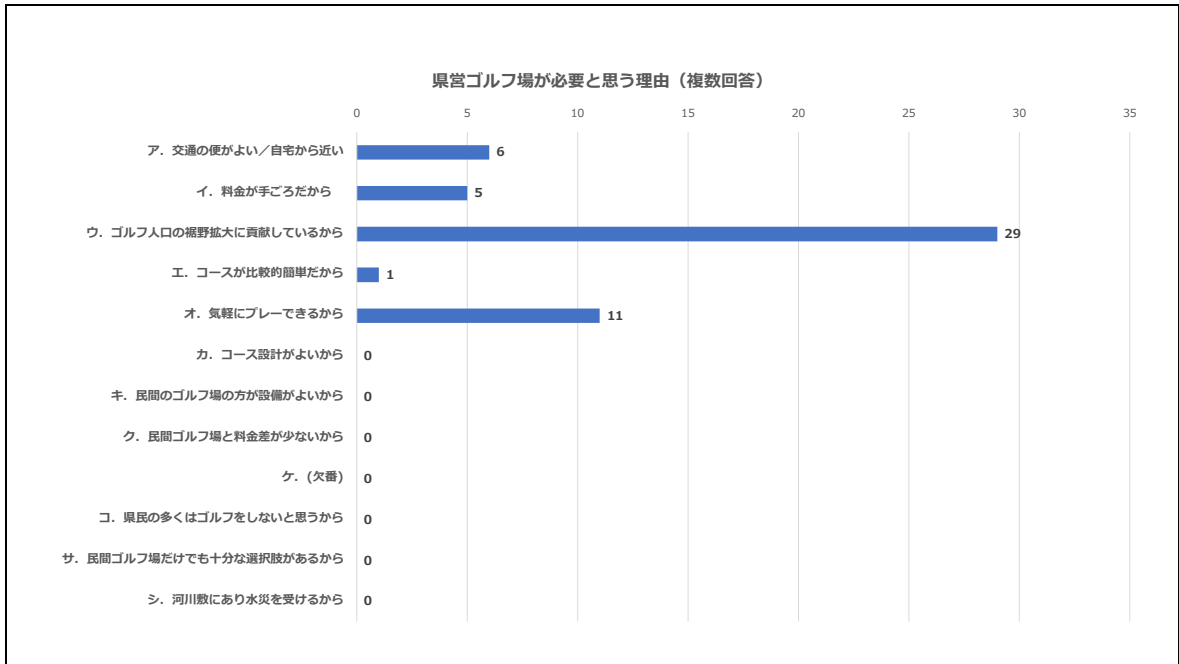
設備やコースについては、その他の意見で「必要最低限の設備でよい」といった設備の簡素化を図る意見や、反対に「利用者の満足度を満たす設備は必要」といった十分な設備を必要とする意見に分かれた。

今後の県営ゴルフ場に期待すること

その他の意見では、「県民の利用割合を高める」「民間との差別化を図るために県営独自の運営を行う」「初心者やジュニアが気軽にゴルフを始められるようなゴルフ場」「県民に対する利用料の優遇」等の意見が多く挙げられた。

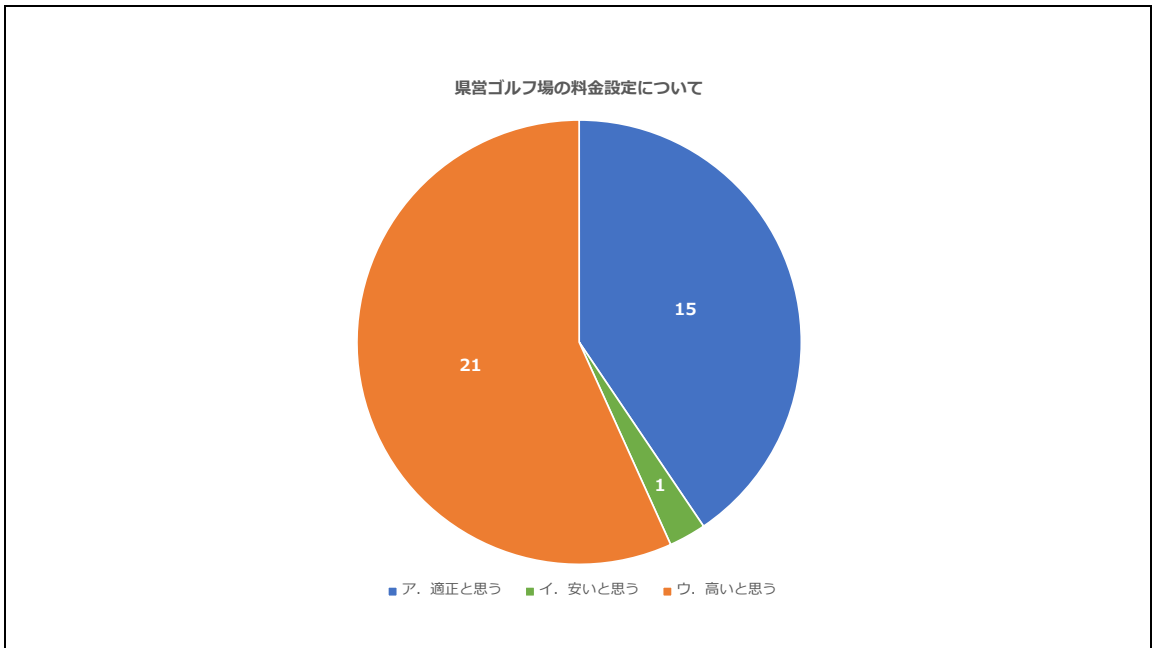
県営ゴルフ場の要否

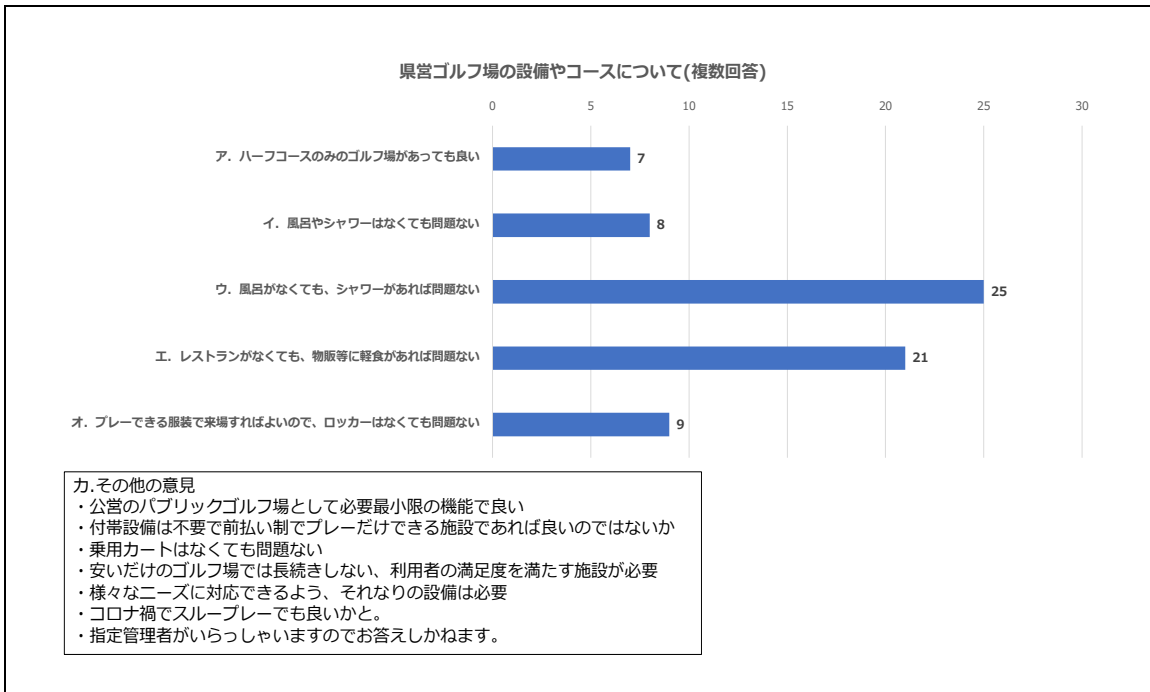
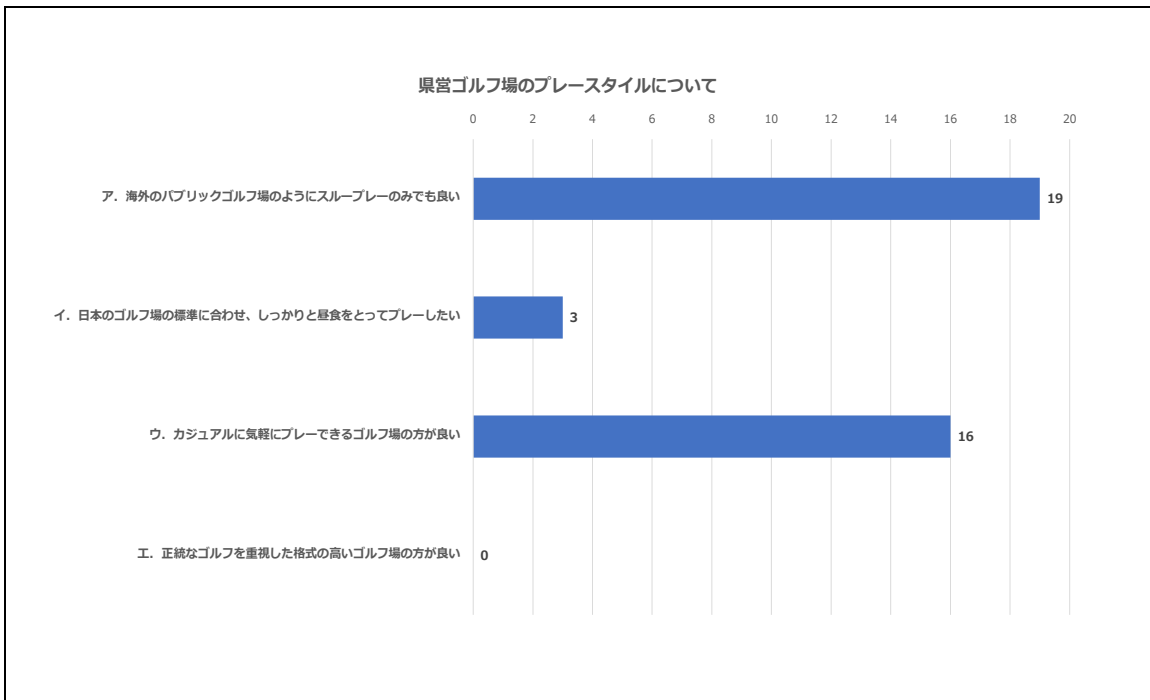


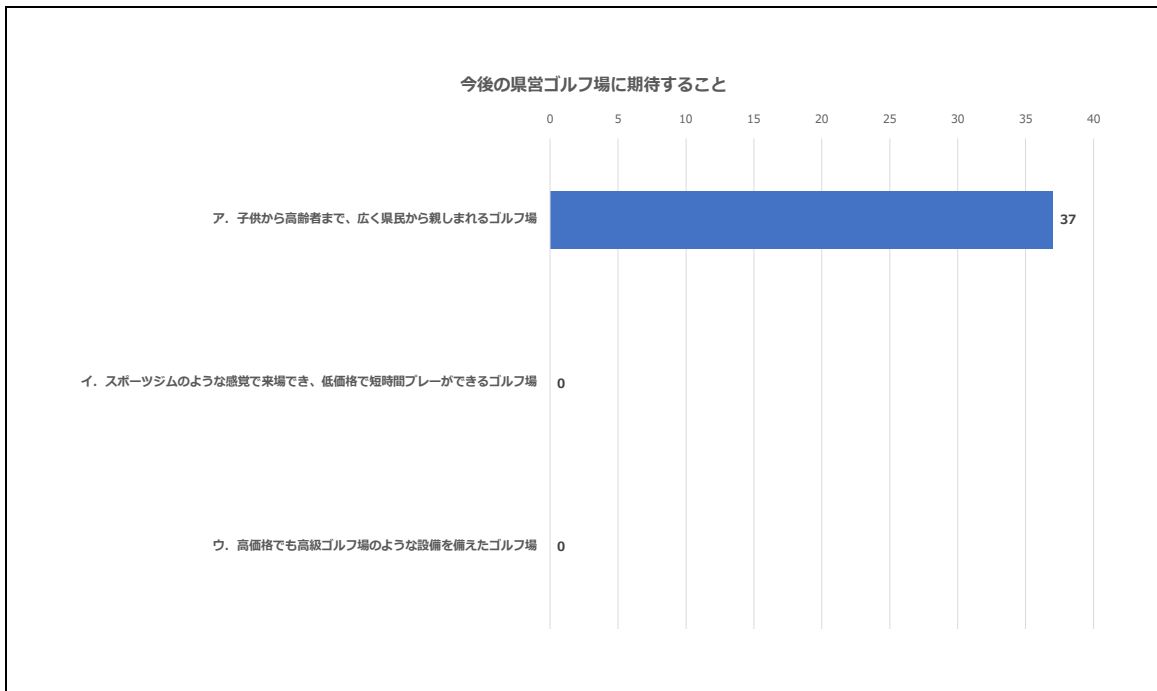


県営ゴルフ場が必要と思う理由（ス.その他の意見）

- ・ 県民のお年寄り、女性、ジュニア達が安く安心してプレー出来るパブリックゴルフ場として特化すべき！
- ・ 県民を中心とした子供から大人まで気軽に安くプレーできるようにすることが良いのでは
- ・ 県民のゴルフ初心者・女性・ジュニア等ゴルフ人口の裾野拡大に特化すべき
- ・ 県民のお年寄り、女性、ジュニアが安心してプレーできるコースとして
- ・ 平坦なので、シニア・レディース・ジュニア層に有効かと
- ・ シニアの健康増進・ジュニアの育成等に不可欠
- ・ 県内の高齢者・ジュニア層の方が利用がし易い
- ・ 県としてジュニアゴルファーに力を入れるべき
- ・ ジュニア大会開催など低料金で開催できる
- ・ ジュニアイベント、公式競技に大きく貢献している
- ・ オリンピック正式種目のため地域イベント等でゴルフ人口を増やし発展すべき
- ・ 県民料金の設定
- ・ 県にお金が入り有効に使われているから
- ・ 営利目的ではない県民のゴルフ人口増加の為に尽力を頂きたい
- ・ なんとなく親近感、来場し易さを感じる





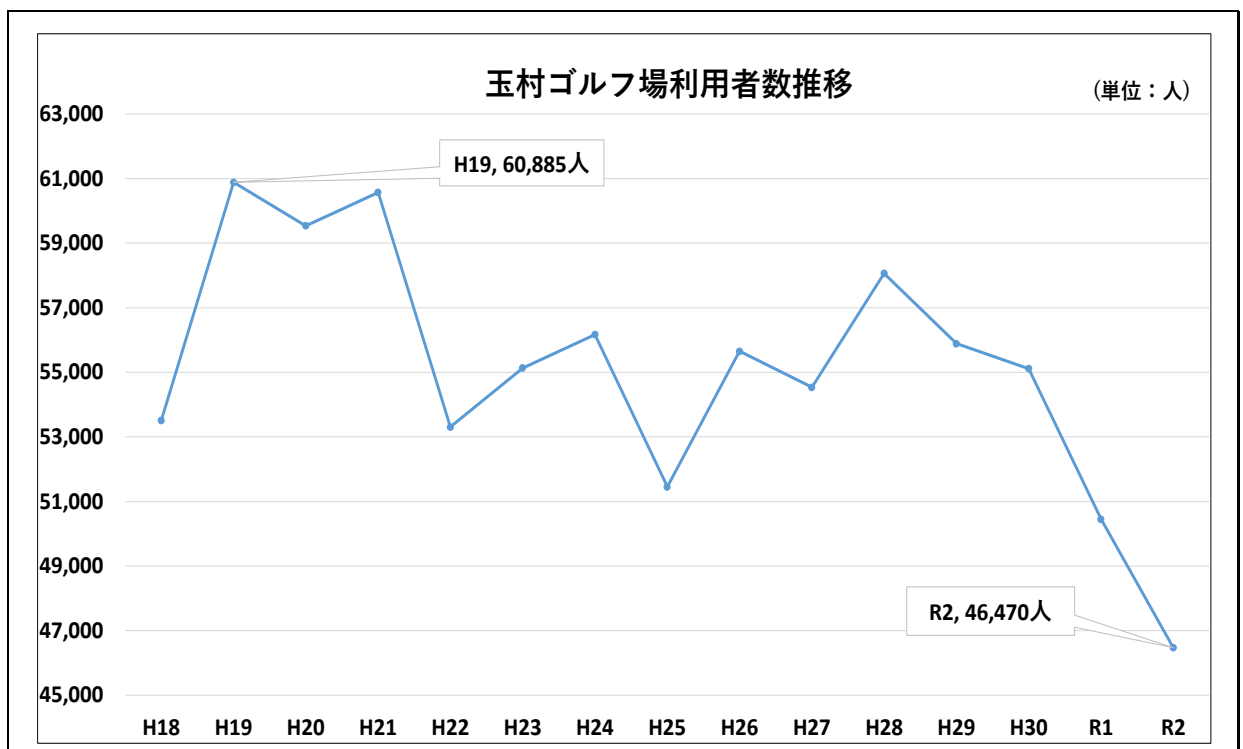


今後の県営ゴルフ場に期待すること（エ.その他の意見）

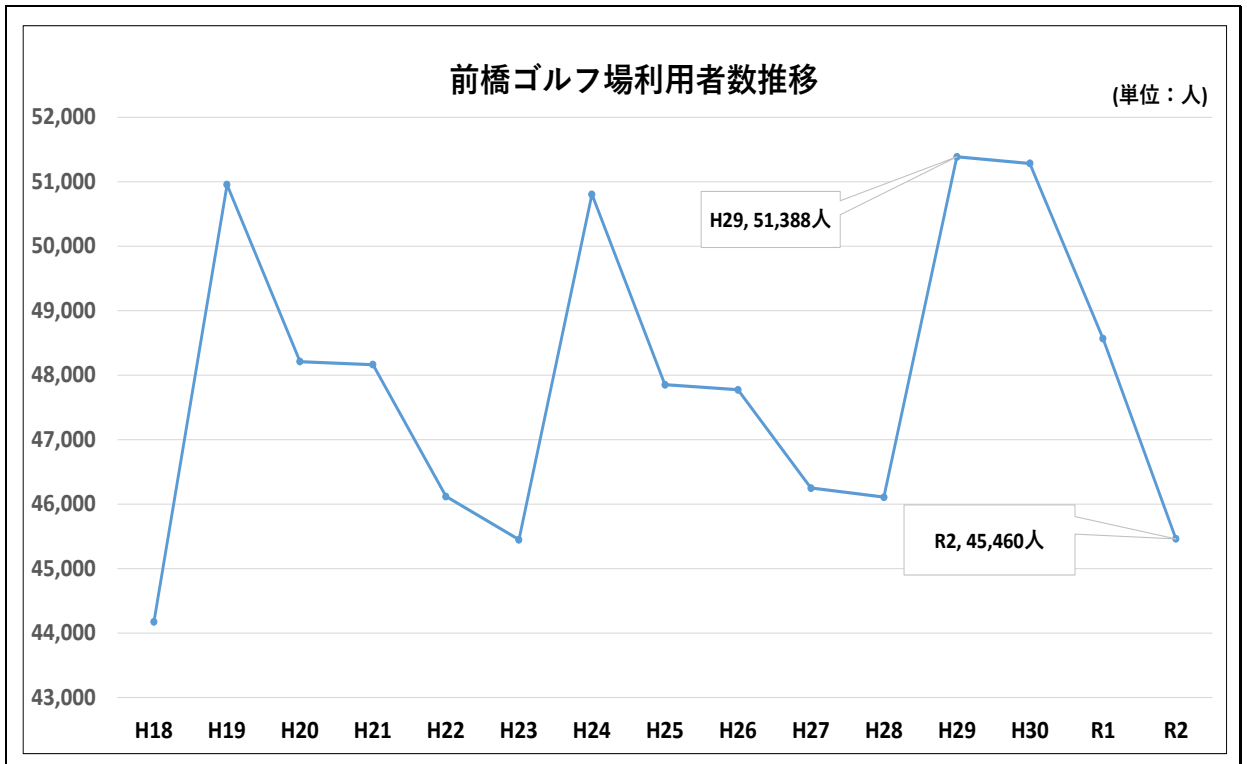
- ・群馬県内のお客様を増やすため、**県内と県外のプレー料金設定の改善**をお願いしたい※群馬県在住の方の料金を県外のお客様料金より安くしたほうが良い。
- ・ある程度県民重視路線で、**県民と他県民との料金差**をつけて、**ゴルフを始めようとするプレイヤーの受け皿**としての運営を期待します。
- ・**県民と他県民の料金に価格差を設定**する。
- ・**県民と県外者の料金に差をつけるべき。**(企業局に対しての要請)：ボランティアで活動しているジュニア育成者（国体監督等）に対し予算をとり助成してほしい。
- ・現状は県外利用者が多く、**県民の利用割合を70%以上**とすること。民業圧迫状態から、いかに棲み分けられるかの**コンセプトの構築**が必要。
- ・現状は県外からの利用者が多いので**県内を8割以上に**。民間コースを圧迫しないでほしい。
- ・民業圧迫にならないよう**特定利用者に特化した施設**を希望する。
- ・民業圧迫にならないよう、**県営独自のプレースタイル等の再考**をお願いしたい。**県営ゴルフ場との棲み分け**により、ゴルフ人口の拡大につながるような運営を望みます。
- ・松山英樹、渋野日向子、笹生優花など世界で活躍するゴルファーを見てゴルフを始めたいという**ジュニアがゴルフを始め**るきっかけとなるような**仕組み**を取り入れてもらいたいと思います。
- ・ゴルフを始めようとする方々に**敷居が高い印象を与えないような運営**を期待。
- ・**民間経営のゴルフ場より気軽にプレー出来る事**をメインにしたら良いのでは。
- ・県民が**初めてゴルフを始める時に気軽に利用できる**コース。
- ・県民が楽しめる**ゴルフ以外のイベントを開催**しては？
- ・ゴルフは**生涯スポーツ**として高齢者からも親しまれ、今後のゴルフ普及としてコース乗り入れ可能(二人乗りカート) スタイルにしていけたら業界全体の発展に繋がると思います。
- ・老朽化が目立つため、**施設の改修**を期待します。

3 施設の基本情報（個票）

玉村ゴルフ場の概要		
所在地	佐波郡玉村町角淵5006	
設置年月日	昭和51年9月19日	
敷地	河川敷借上、県有地	
河川：管理者	烏川：国土交通省	
敷地面積	517,711㎡	
コース	全長6,572ヤード、18ホール、パー72	
クラブハウス：建設費	(当初)鉄骨造1階建 1,006㎡：建設費701,420千円 (H27全面建替)鉄骨造2階建 1,606㎡：建設費669,726千円	
設置経緯	玉村ゴルフ場は、市町村から県営ゴルフ場建設について要望が数多くあげられた中で、県中部にある玉村町地先烏川河川区域を利用して、運動場やキャンプ場を含む「烏川河川敷総合レクリエーション施設整備事業」の一環として、企業局が整備したものである。	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・県内利用者48%、県外利用者52%（令和2年度） ・クラブハウスは平成27年度に全面建替を終えている。 ・キャディ付きでのプレーが可能 ・新玉村ゴルフ場と隣接している。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接しているが、施設の差やコース難易度の差がある新玉村ゴルフ場との効率的な運営 ・国土交通省による「利根川・江戸川河川整備計画」の影響 	
玉村	指定管理者	納付金額（単位：千円、税別）
第1期（H18.4～H23.3）	（株）三商	174,000
第2期（H23.4～H28.3）	（株）三商	174,000
第3期（H28.4～R 3.3）	（株）三商	170,000
第3期 延長（R 3.4～R 4.3）	（株）三商	150,000
第4期（R 4. 4～R 7.3）	（株）三商	160,000



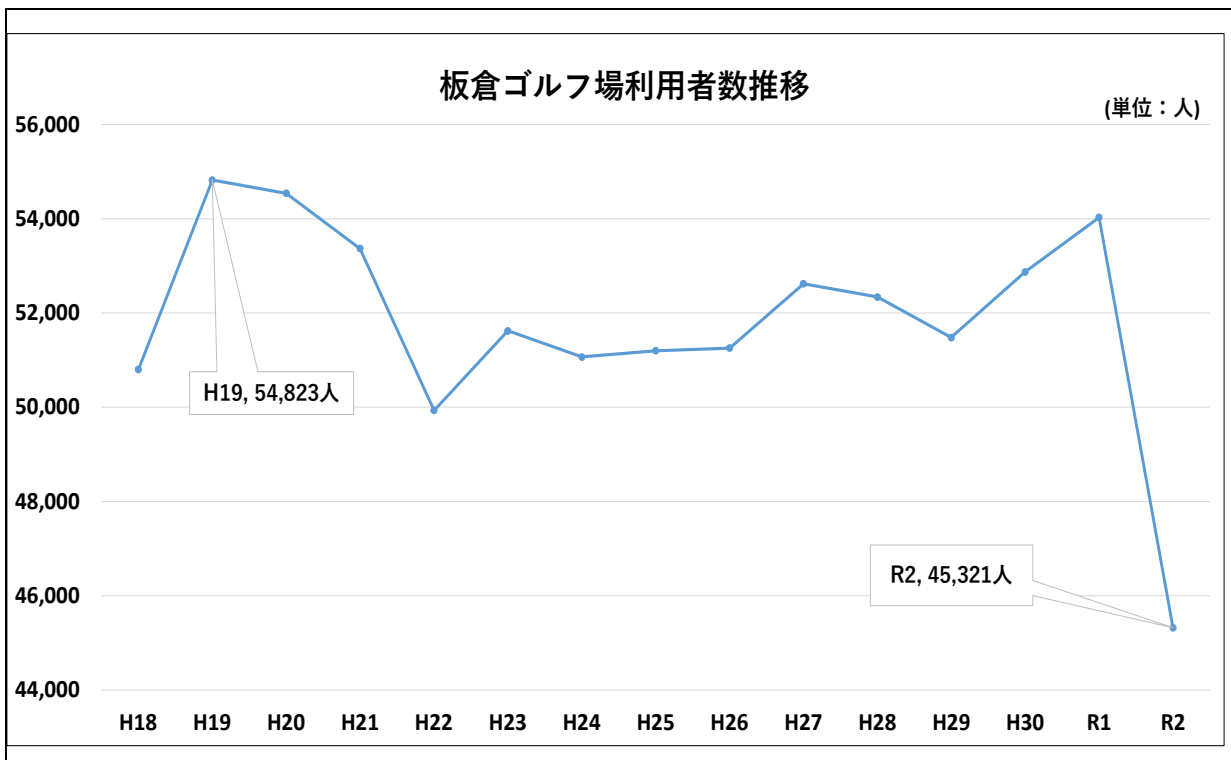
前橋ゴルフ場の概要		
所在地	前橋市川原町1-42-14	
設置年月日	昭和54年10月23日	
敷地	河川敷借上、県有地、民地借上	
河川：管理者	利根川：群馬県	
敷地面積	420,010㎡	
コース	全長6,333ヤード、18ホール、パー72	
クラブハウス：建設費	鉄骨造平家建 686㎡：建設費 1,090,071千円	
設置経緯	前橋ゴルフ場は、約60haを有し、県の総合運動場に隣接する位置にありながら、ショートコースの民営ゴルフ場があるだけで、そのほとんどが利用されていなかった。前橋市では河川敷を市民の運動場に活用するため、「利根川河川敷緑地整備事業」を進め、その一環としてパブリックゴルフ場を計画したが、市の公営企業としてはなじまなかったため、昭和51年に知事と県議会へ請願陳情を行ったことにより、企業局が整備したものである。	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・県内利用者82%、県外利用者18%（令和2年度） ・近隣に温泉施設あり、連携検討も可能か 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化 ・施設設備が狭小（特にロッカーや浴室） ・指定用途地域(第1種中高層住居専用地域)により建替え不可(一定条件の下での増改築は可) ・敷地が狭いため、営業を継続しながらの建替が困難 ・周囲の急速な宅地化 ・近隣住宅への打球事故が多い 	
前橋	指定管理者	納付金額（単位：千円、税別）
第1期（H18.4～H23.3）	ライジングプロモーション（株）	59,000
第2期（H23.4～H28.3）	（株）フレッセイ （※H23年度は指定管理者が決まらず、企業局が直営）	85,000
第3期（H28.4～R 3.3）	久松商事（株）	80,000
第3期 延長（R 3.4～R 4.3）	久松商事（株）	70,000
第4期（R 4.4～R 7.3）	久松商事（株）	112,000



板倉ゴルフ場の概要

所在地	邑楽郡板倉町板倉777		
設置年月日	昭和59年10月21日		
敷地	河川敷借上、県有地、民地借上		
河川：管理者	谷田川：群馬県		
敷地面積	446,020㎡		
コース	全長6,554ヤード、18ホール、パー72		
クラブハウス：建設費	鉄骨造2階建 1,077㎡：建設費 1,686,601千円		
設置経緯	板倉ゴルフ場は、観光施設や余暇時間の活用を図るための施設に恵まれていなかった東毛広域圏において、昭和56年に東毛広域市町村圏振興整備組合及び板倉町から、谷田川流域に「群馬の水郷」と「ゴルフ場」とをスポーツやレクリエーションの基地として整備するように求める陳情が提出されたことから、企業が整備したものである。		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・県内利用者17%、県外利用者83%（令和2年度） ・周辺のゴルフ場の利用料が高いたから、県営ゴルフ場の中では比較的高い料金設定となっている。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・想定を超える建物の劣化状況 ・施設設備が狭小（特にロッカーや浴室、駐車場） ・利用者が多い時には、国道354号北側の空き店舗の駐車場を従業員用臨時駐車場として借用 ・軟弱地盤対策、既存建物の大規模改修が必要 		
	板倉	指定管理者	納付金額 （単位：千円、税別）
	第1期（H18.4～H23.3）	（株）東急リゾートサービス	201,000
	第2期（H23.4～H28.3）	（株）東急リゾートサービス	203,000
	第3期（H28.4～R 3.3）	東急リゾート&ステイ（株）	199,000
	第3期 延長（R 3.4～R 4.3）	東急リゾート&ステイ（株）	175,000
	第4期（R 4.4～R 7.3）	東急リゾート&ステイ（株）	199,000

板倉ゴルフ場利用者数推移



新玉村ゴルフ場の概要		
所在地	佐波郡玉村町大字川井1065-1	
設置年月日	昭和60年10月28日	
敷地	河川敷借上、県有地、民地借上	
河川：管理者	烏川：国土交通省	
敷地面積	539,949㎡	
コース	全長7,051ヤード、18ホール、パー72	
クラブハウス：建設費	鉄骨造2階建 882㎡：建設費1,321,125千円	
設置経緯	新玉村ゴルフ場は、玉村町総合計画に基づき既存ゴルフ場及び隣接する運動公園を含めた「烏川河川敷総合レクリエーション施設整備事業」の一環として、ゴルフの大衆化にともない、より一層の底辺拡大を図り普及を促進しようとする目的で企業局が整備したものである。	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内利用者42%、県外利用者58%（令和2年度） ・ 玉村ゴルフ場と隣接している。 ・ 県営ゴルフ場の中では、比較的上級者向けのコース ・ 群馬県知事・議長杯、群馬県オープンゴルフ選手権の会場 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の老朽化 ・ 周囲の宅地化や敷地が狭いことから営業を継続しながらの建替が困難 ・ 施設設備が狭小（特にロッカーや浴室、駐車場） ・ 隣接しているが、施設の差やコース難易度の差がある玉村ゴルフ場との効率的な運営 ・ 国土交通省による「利根川・江戸川河川整備計画」の影響 	
新玉村	指定管理者	納付金額（単位：千円、税別）
第1期（H18.4～H23.3）	金井興業（株）	194,000
第2期（H23.4～H28.3）	金井興業（株）	177,000
第3期（H28.4～R 3.3）	金井興業（株）	167,000
第3期 延長（R 3.4～R 4.3）	金井興業（株）	147,000
第4期（R 4.4～R 7.3）	金井興業（株）	147,000

